男一匹ガキ大将

吹け！万吉旋風の巻

第7巻

本宮ひろ志

男一匹ガキ大将

●第7巻●

本宮ひろ志

吹け！万吉旋風の巻

物紹介

眼帯の銀次　　戸川万吉

綱村鉄次

須永　博(ヘルス)

前巻までのあらすじ

戸川万吉は、西海村という、小さな村であばれていたガキ大将だ。そのあばれっぷりに憧れて、眼帯の銀次が子分になった。それからは、つぎつぎと子分がふえていき、いつの間にか、千人もの子分をひきいる大番長になっていた。

しかも、万吉は浮浪者の総大将・カスミの大三郎と知りあい、全国の浮浪者まで味方に引きいれた。浮浪者の頭・坊屋光五郎までが万吉の軍師となった。

〝どうせあばれるなら、日本一のガキ大将になろう！〟万吉は、そう心に決め、男のド根性を大人の世界にたたきつけた。その結果、強敵水戸のおばばをむこうにまわし、株で大もうけ。二億円に近い大

六室の部屋長
黒沢(右)

四室の部屋長
赤倉三郎(左)

登場人

金を手中におさめた。

だが、日本財界の大物・白川宇太郎の悪だくみで、西海村は見るも無惨な焼野原と化してしまった。万吉は、その火つけ犯人にされ、警察に追われる身となり、千人の子分とともに赤姫山に籠城した。警官隊を、さんざん悩ましたあげく、自首したのである。有罪となった万吉と銀次と綱村は特等少年院へ送られた。

黒沢部屋長たちのいる六室に入れられた万吉は、連日すさまじいリンチにあいながらも、次第に勢力を増していった。そして、各部屋長を万吉一家に引き入れようとするが、影の総部屋長・鬼頭政次の権力が、万吉の上に大きくのしかかってきた。〝やったるでーっ、鬼頭!!〟万吉が呼べど叫べど鬼頭の姿はない。総部屋長、鬼頭政次とは、いったい、なに者なのか……!!

総部屋長　鬼頭政次

特等少年院　院長

あゆみ

白川宇太郎　水戸屋商事会長　水戸正江

目次

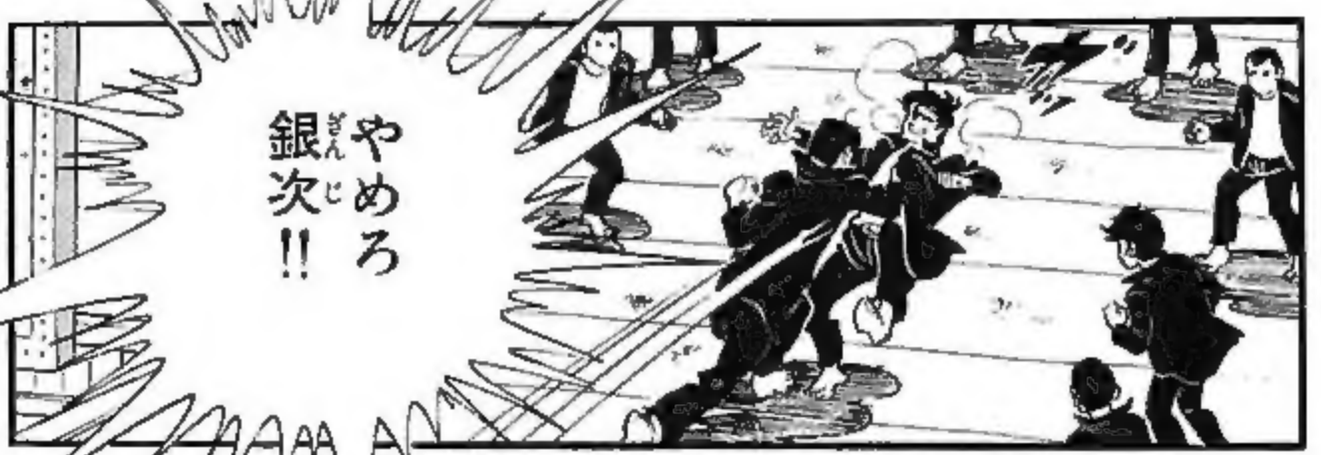
男一匹ガキ大将 7
吹け！万吉旋風の巻

花は紅 柳は緑の巻……8
吹け！万吉旋風の巻……30
闇の広場の巻……53
鬼頭にあわせろの巻……76
鬼頭の正体の巻……100
鮮血の抵抗の巻……122
あかつきの大惨劇の巻……140
さらば特少の巻……160
万吉、西海村に帰るの巻……179

男一匹ガキ大将

花は紅
柳は緑の巻

いくぜーっ
てめえら


やめろ
銀次(ぎんじ)!!

またか……
またかよう……
親分(おやぶん)……

いいかげんにしてくれーっ

どうしたんだよ親分!!
以前のスカッとした万吉親分はどこへいっちまったんだよ

熱でもあるのか銀次……
な……なんやて……

わいのいうことをきけへんちゅうのんけ……
そ……そんな……
ン……
わわわ……

だったら
だまっ
とらんのかい
おまえら
……
そんなに
わいが
きらいか……

いや……
おれたちは
なにも
万吉さんが
いやだって
いってるんじゃ
ねえ……
鬼頭さんに
さからいたく
ねえんだ……
あんたが
鬼頭さんの
下になって
くれれば

おれたち
としては
なにも
文句はねえ……

鬼頭さんに
あったことは
ねえが……
部屋長
たちに
話をきいてる
だけだけど
よ……
すげえ
人だぜ……

もういい……
しんどいやろうな親分……
以前のわいとおなじや……
戸川

親分
おちました
で……
これ……
ああ……
手紙か……
なに
いっ
だれ
からや……
へえ……
海雲寺の……
おしょう
はんから
か……
ン……

なっ
なんて……
書いて
あるん
ですか…
ゴッ
おっ…
親分…
大将
……

どっ……
どこへ
いくんでっか
……
便所
便所や
……
ゴロ
便所
……
？
いいか
どんなことが
あっても……
あけるな
……

うひっ
わっ…
……
便所

おっ
おい……
かれこれ
二時間やで
いったい なにを
やってるんだ
親分は……

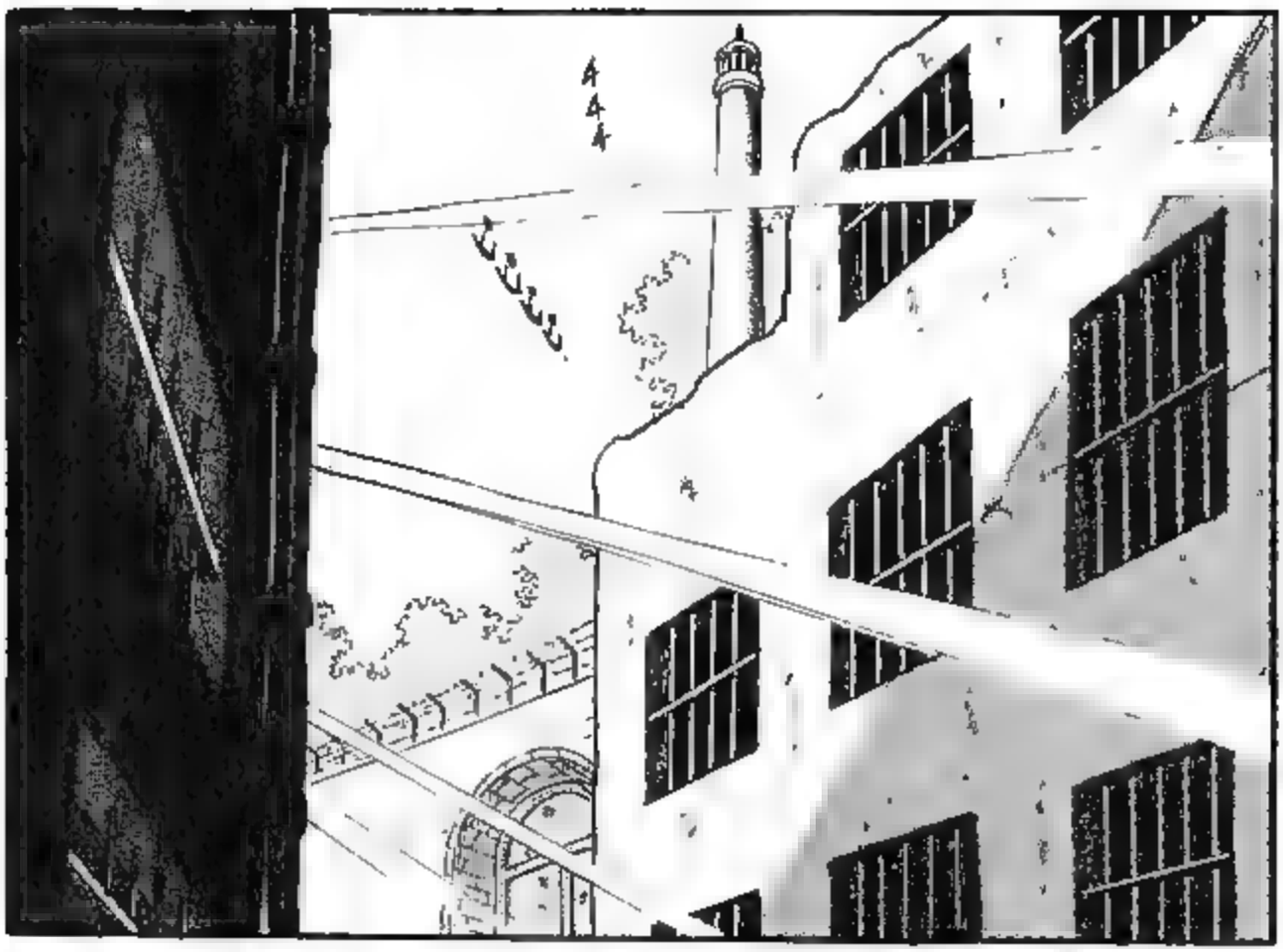
まっ・・まさか
首でもくくって
るんじゃ
ばっ
ばかなことを
いうな・・・

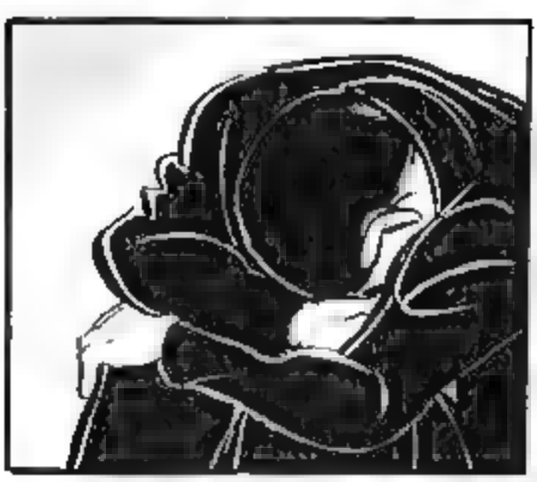
手紙が
原因だ
親分には
悪いが
読んでみな・・・

花は紅
柳は緑
笹の名前は
猪熊秀治

あっ・・あ
あ……

ン……
なんだ
こりゃあ





うっ
なんだ…
うおっはっはっ!!
はっ…
なっ……なんだ…
なにごとだ…
親分!!

あはは
はは……
お……
おやぶん
……
一晩も
便所に
いるなんて
いったい
どういう気
なんですか…
あはは
……
いやあ
考えてみたら
わいは 三日も
ウンコしてへん
かった
それを
一晩かかって
ぜんぶ
だしよってん
三日…
なんや
その顔は…
われも
便泌と
ちゃうか…

せやったら
便所へ
行ってこい…
便所へ
親分…
腹のなかのもん
ぜんぶだして
みい……
じつに
ええ気持ちや
でえ～～～～
うわっは
ははは
あっは
はは…

おん大将……
むう…
おん大将のおっしゃるとおりです……
なにいっ
浮浪者の補導はかんぜんにやめました……
それどころかいったん収容所にいれられた連中も……
しゃくほうされたというのか……

はい……
おん大将……
ヤッ!!
お……
よろこぶのは
はやいぞ
光五郎……
はっ…
白川め……
われわれを
そのままに
しておくのは
じぶんのものに
したくなった
からじゃ……
われわれを
じぶんの
情報網に
したいためじゃ

まさか　われわれは
万吉の心意気に
感じて　やって
いるのですぞ…
それを…
……
光五郎
……
感じただの…
ほれただの…
これほど
不安定なものは
あるまい
はっ…
はあ…
それに
白川宇太郎
……
どんな手で
くるつもりか
しらんが…
かなりの
自信があると
みえる……
われわれを
みかたに
することにな…
ふっふふ…
これからが
たいへんじゃ

ザッ
ザッ
ザッ

おい…
万吉のガキ
その後
どうしてる…
なんだか
しらねえ…
ばかに
おとなしいぜ
……

いつでも
ニコニコ
笑ってるそうだ
……
笑ってる
わかったのかな
鬼頭さんの
ことが……
まさか…

ねえ親分……
なんじゃい……

おしょうの手紙ですけどね……
どういう意味ですかありゃあ……

花は紅柳は緑か……
ふふ……

おれも ひと晩便所の中で考えたがやっぱりわからなかった……
おしょうのガキわいにいったいなにがいいたかったのか

いいかげん生まれついてのバカ頭をうらんだで……

ふふ……その時や……
わかったんですか

ああ……

花は紅　柳は緑……
はらがへりや　メシをくい
ねむくなりや　ねむる……
このでっかい
宇宙は　わいなんぞ
関係なく　つねに
うごいとるんじゃ
その中の
つぶみたいな地球
そのまたゴミ
みたいな人間一匹
ウジウジしても
どうも
なれへん
なるように
しか　ならんの
じゃい……
ふふ……そう
思ったとたん
笑えてきてなあ
……
はっはは
ン！
なんだ

どっ……
どうした
だいじょうぶ
か……
あっ…ああ
ちょっと
目まいが……
そっ…そら
あかん……
桐村……
おぶってやれ
……
へい…
すすんません
！
なあに
……
ン……
こら――っ
勝手なことを
するな!!
おまえらは
じぶんのやること
だけ やっとりや
いいんだっ!!

なにい〜〜〜っ
なっ なんだ その目つきは……

やめたまえ……
ン……

すまんがたのむ
めんどうみてやってくれ……

しらなかったのかやつには 所長から特別命令がでているんだ
なるべく監視をゆるめて 行動を自由にしろと……
ほっ……ほんとですか……

万吉さんあんたは ほんとに強ええ人だ……
もうたちなおったのかい……

だが けっきょくは鬼頭には勝てんだろう……
ふふ……

吹け！万吉旋風の巻

銀次……
作業場へ
ついたら
やれ……
へっ……
四室の赤倉を
なぐりとばせ
……
やっ……
やるんですかい
親分……
ああ
やる
長いあいだ
またせたな
戦闘開始
だ……

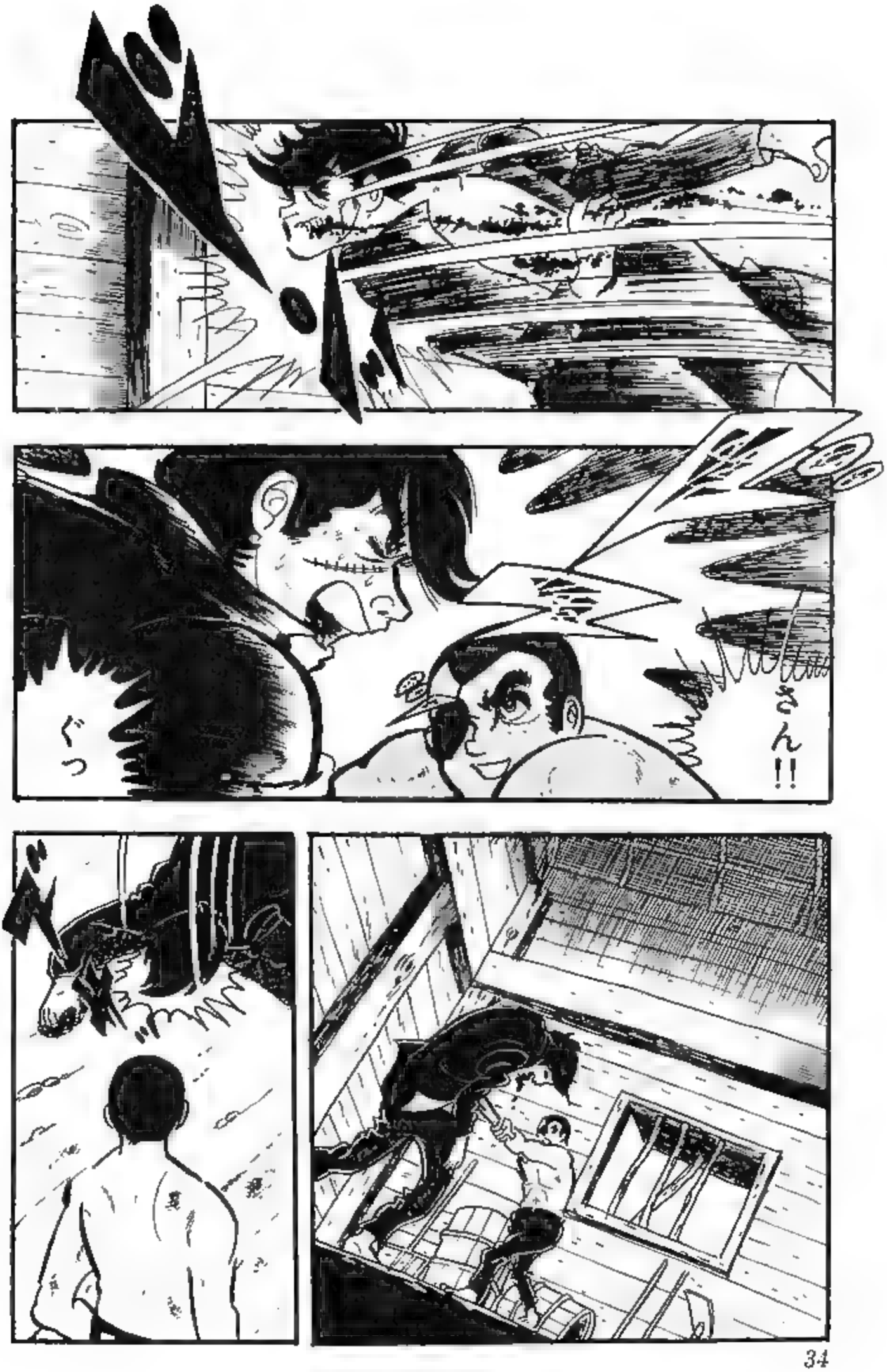
ふっふふ……
身のほどしらずめ……本気でこのおれにけんかを売る気か……
ぶわ
かけてみるか!?
いったいなん秒で……

このおれにぶちのめされるかな
なかなかいうじやねえか

三下(さんした)……

三秒だ
へっへへ…
三秒で
おしゃかだ
てめえ…
やっ
やろう
……
なめやがって!!
命は
もらった
あ——っ
こい!!
やかまし
——!!

いちっ!!
あわっ
もらっ
たあ!!
にいっ!!
げえっ


さん!!
ぐっ

ケッ
たあいもねえーっ
早いな……
へっへへ……

あとはたのんだぜ……
ああ……
一室の高田さん…ちょっとつきあってくれへんか……
ん……
なんだてめえ…
なんの用じゃい
くればわかる……

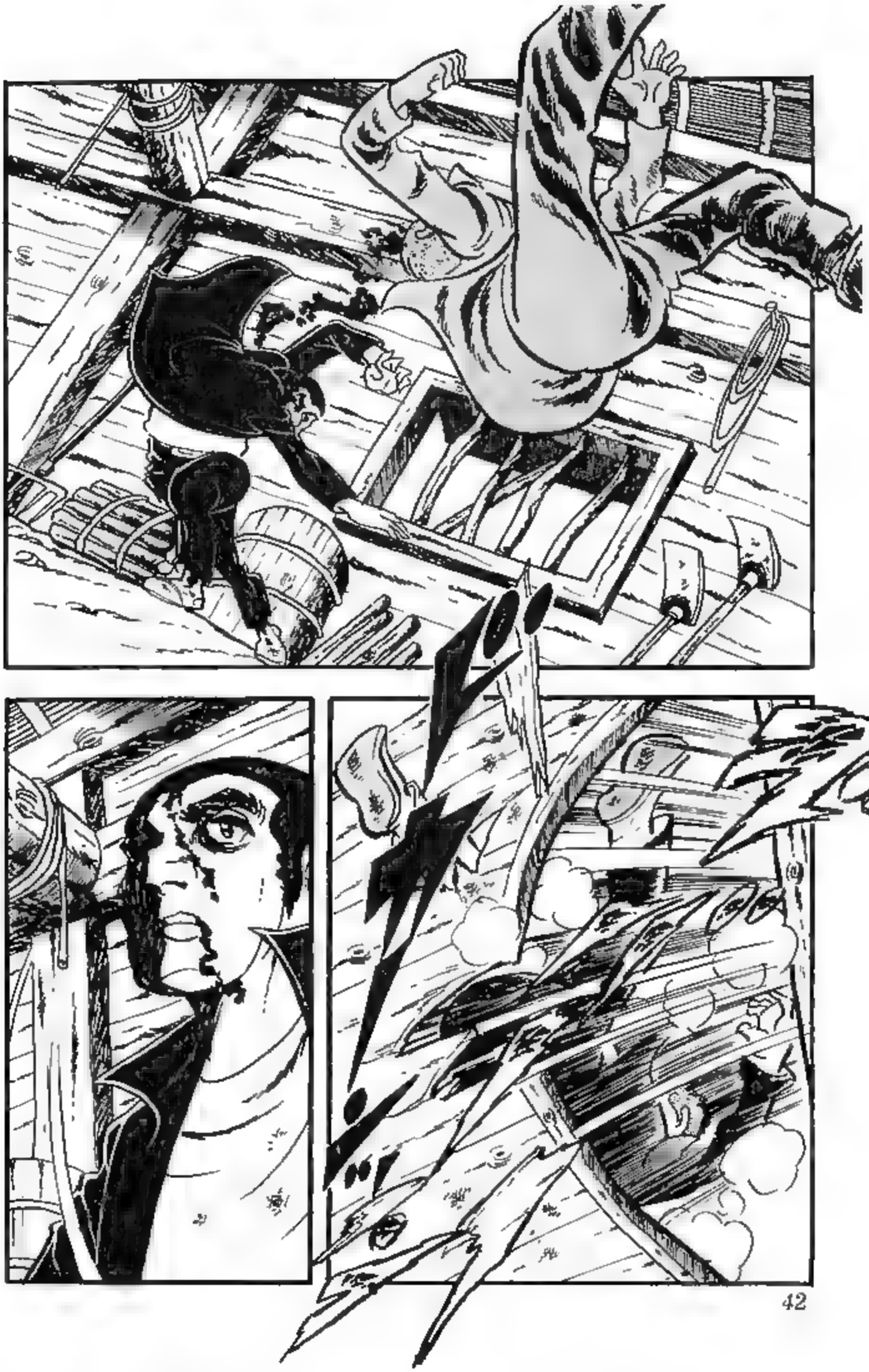
なるほどな……
こういうわけかい……
!!

ゲッ
ふっふ……
わいは いつも 先に なぐらせる ことにして いる……
そうすると……

頭に 血が
のぼって
やりやすく
なるんじゃ

ゴオオ!!
ゴオオ!!

やろ
――っ!!
ああ
～～～……
ふっふふ
ふ……
ドゴッ
ぐぉ



ゲボ……
ゴボ……
うう……
ほ……っ
ふえ……
さすが
ひと部屋
あずかる
だけある

まだうごいていやがる!!
ぐわっ
くっく…

あう
なっなんだ……
うわあ——っ

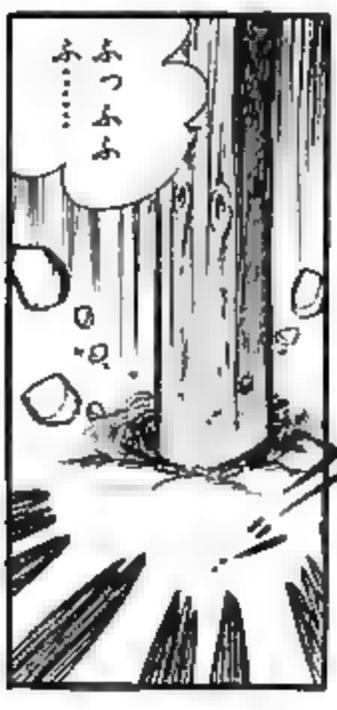
高田さん……
うわっ
ひ…
ひでえ
部屋長!!
赤倉さん…
なんだ
こりゃあ
てめえの
しわざかっ!!
こっ
この
野郎
雑魚に……
……
ふふふ

用はない！

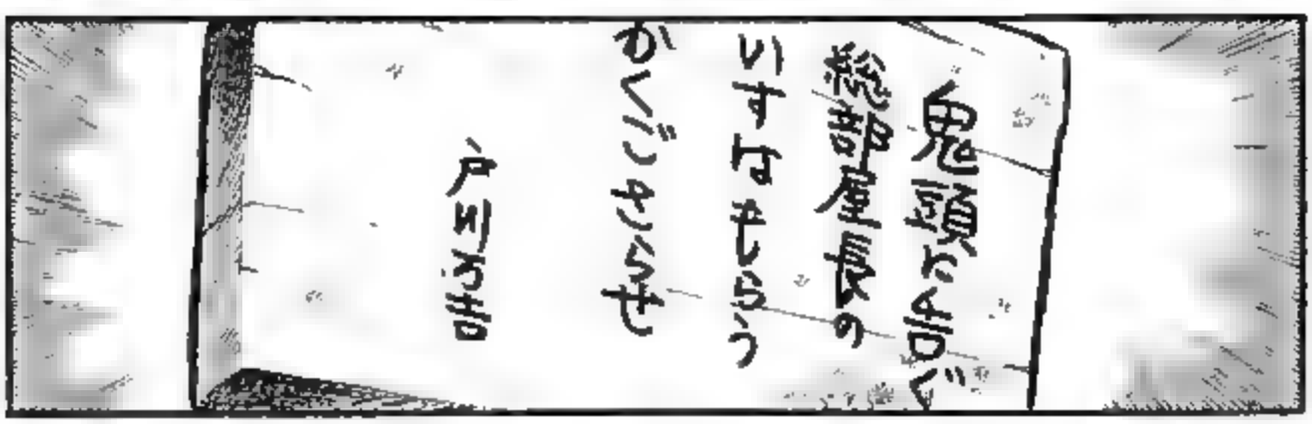
ひっこんどれいっ

ああ…
うう……

だいぶ時間かかったじゃねえか…
ああ…楽しみながらやったもんでな……


ふっふふふ……

鬼頭に告ぐ
総部屋長の
いすはもらう
かくごさらせ
戸川万吉
親分は……
むこうで
ハナクソほじくって
るぜ…はっははは


鬼頭に告ぐ
総部屋長の
いすはもらう
かくごさらせ
戸川万吉

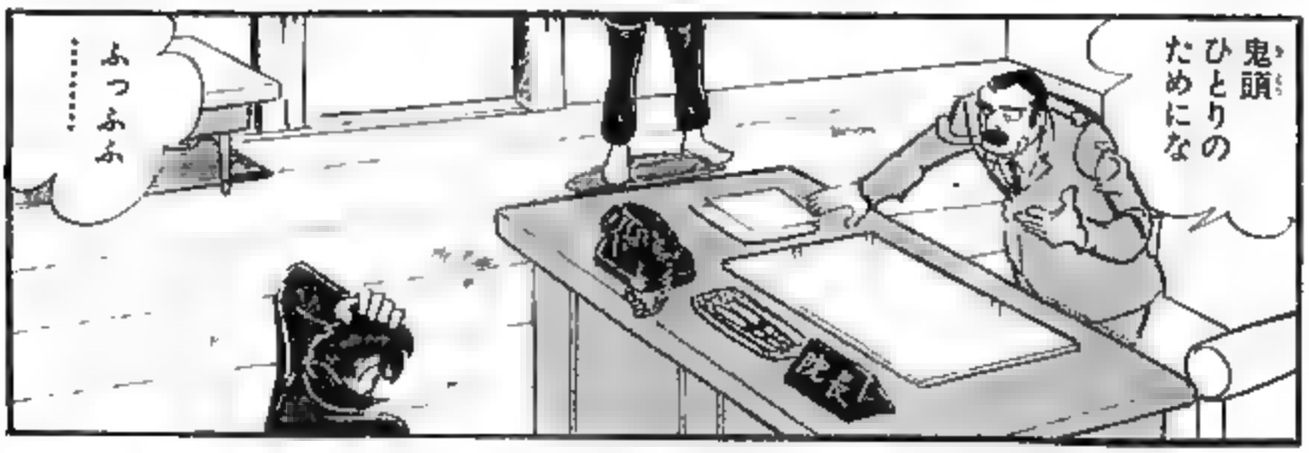
やったな
親分……

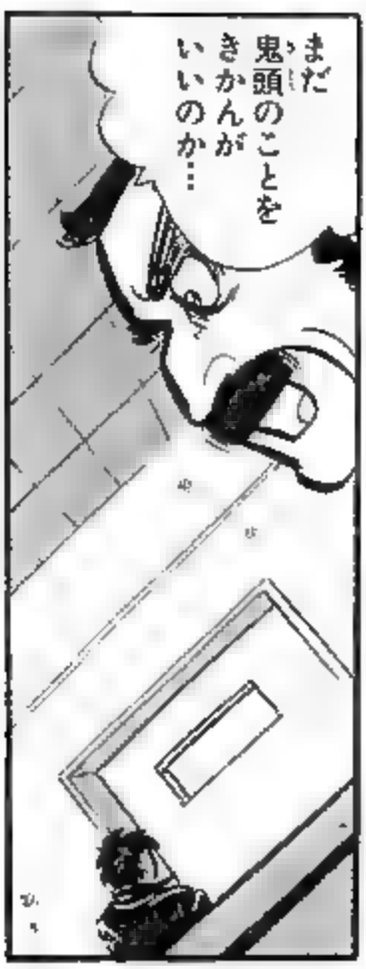
やはり こういう
手しか
思いつかんとは
ふっふ…
さびしい
かぎりだぜ
……

なんや
てえーっ
!!
……
……
へっへへ…
わいは
また
きょうの
けんかざたで
たっぷり
しぼられると
思って
きたんやが…
大目に見よう
じゃないか
今後もな…
だから
この特少に
はびこっとる
鬼頭の根を
ふみつぶせ
ちゅうんやな
……
うむ…
そのとおり
じゃ…

おかしな話だが
教官の　我われの
ほうが　小さく
なっとるんじゃ

きみも　すでに
感づいている
と思うが…
この特少では
院生のほうが
えばっとる…


鬼頭
ひとりの
ためにな
ふっふふ
……
院長

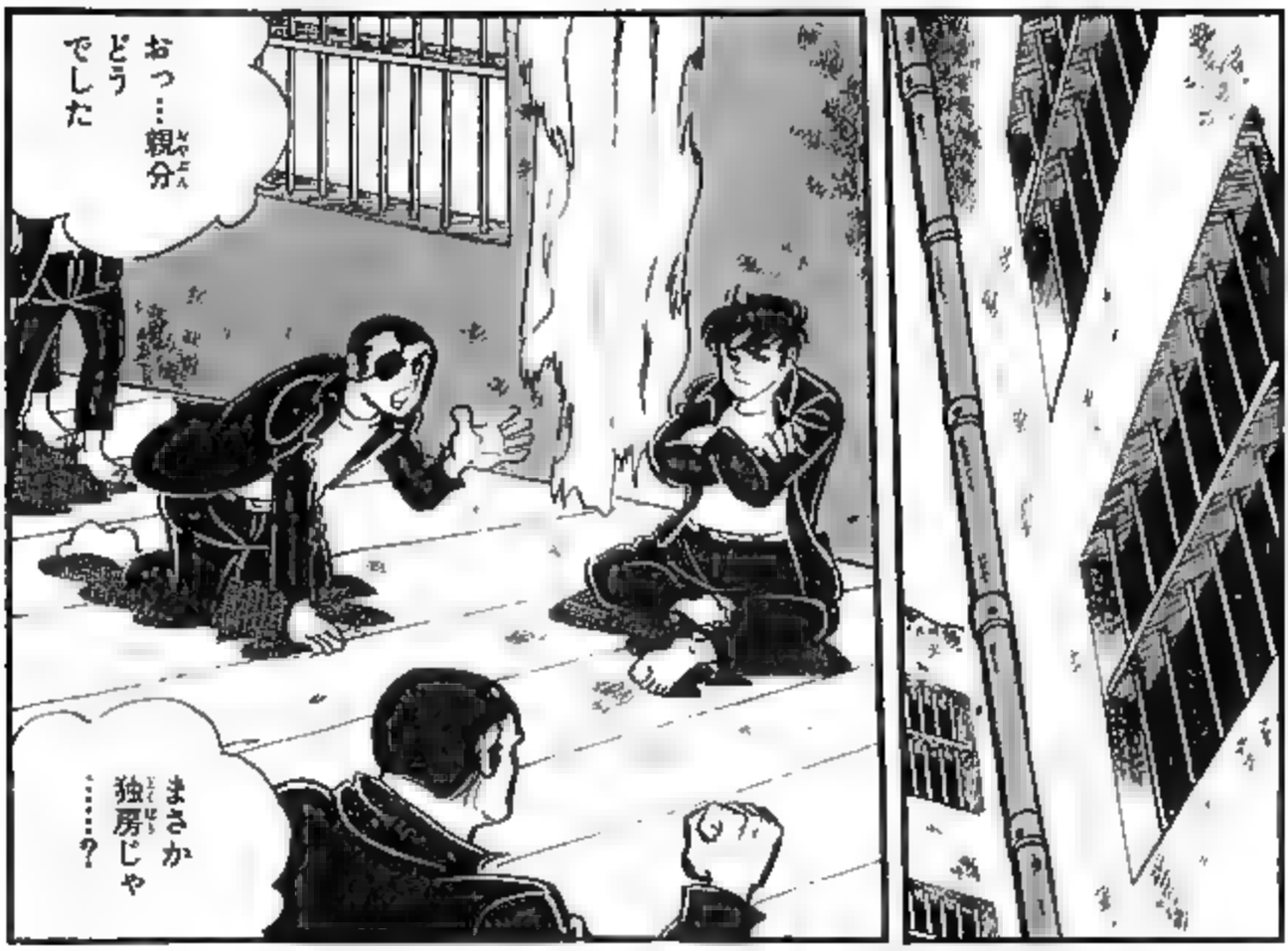

まだ
鬼頭のことを
きかんが
いいのか…

じぶんのため
やるんじゃい！
戸川万吉の
ためにな…

そうすると
わいは
官軍ちゅう
わけやな
そうとも
我われが
みかただ

ケッ……
あんたらの
ために
やるのんと
ちゃうわい

ふっふふ
その必要は
あらへん…
10人の
アホンダラ
どもが
やがて 教えて
くれるわい…
そうか
ふっふふ
しらさんほうが
こっちとしても
都合がいいからな
これで
いい…
これで
いいんだ…
ふっふふ
うわあっ
ははは


おっ…親分
どう
でした
まさか
独房じゃ
……？

へっ…
それどころか
わいは 官軍に
なったで…
おそれおおくも
錦の御旗を
もろうてきた…

官軍
……
なんですか
それは…
こぎたねえ
教官どもめ
……
鬼頭に
なにか にぎられて
いさらすんじゃ
そうにちげえねえ

部屋長……
三室の島田さんが…
なんだ……
鬼頭さんからだといって
なにい——っ
読んでみろ銀次…
へ…へい…
やったあ——っ
やったぜ親分!!
鬼頭のガキからの挑戦状だ
ふっふいよいよでてきたか…
鬼頭政次!!

闇の広場の巻

いよいよ
今晩か……
はっ
……
万吉一家と
鬼頭とが
ぶつかりあう
わけか
ふふ……
いいか……
監視の目は
ゆるめろっ
……
思うぞんぶん
戦わせるの
だ……
そして
この特少の勢力を
二分してしまえ……
その混乱に乗じて
我われが おさえる……
鬼頭も 万吉も 両方
つぶして しまうんじゃ

いよいよ
でてきさらす
わけか
鬼頭政次…
このわいの
前に…
ふっふふふ…

今晩十一時か
ケッへへ…
こいつあ
楽しみだぜ…
いったい どんな
野郎が でてきます
かね 親分…

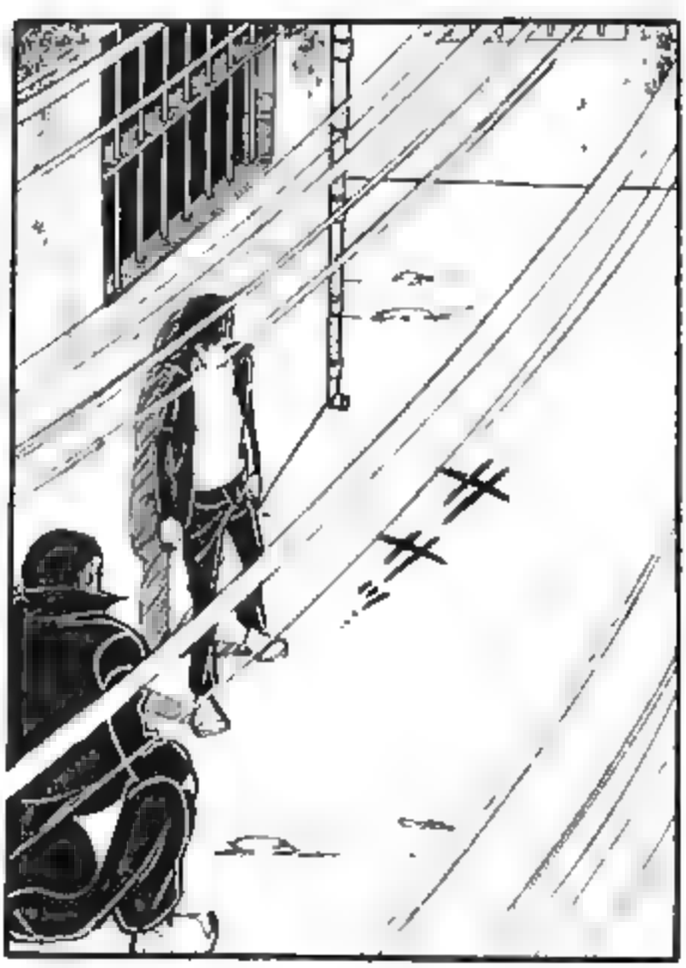
おまえらは
いい…

へっ…

鬼頭には
わい ひとりで
行く…
そっ…
そんな親分
…

こいつは わいひとりで やらな 気が すまんのじゃ
どんなことが あっても……
おおまかの 見当は ついている……
ほんと ですか……
ああ……
ワイ
ピタッ
ドーン

へっへへ……
親分……
あんたにだけ
いいかっこ
させられねえ
ぜ……



まったくよ～
一番
いいところ
だからな
へっへ
へへ……

なっ……
なんや
おまえか…
アホ……
びっくりさすな

うっ……

……
鬼頭政次
か……

いまに
みさらせ
ふっふ……

おそいぞ
万吉

ばけの皮
ひんむい
たるで…

こわくなったかこの鬼頭が……
ふっふふ……

やはり
そうだったか
鬼頭政次
さん……
なにい
……

ふっふ……
なんのために
顔を
かくすんじゃい…
うっ

かんろくのない
しまらねえ
顔を みせ
たくない
ちゅうのん
け……
ふっふふ…
におうぜ

うっ……
くっ

その鬼頭政次
……!!

にせもののにおいがプンプンするでえ〜っ

うわーっ!!
きさまーっ!!

みせろ
――っ
うっ
やはり
そうかっ
ううっ
……
やろ
――っ

いつまで
とぼける
気じゃいっ
!!
うおっ
!!
ひっ
ありゃ
!!
ーっ
ぎゃあ
ーっ
鬼頭!
政次!!

それは
おんどれら
九人じゃ
うっ…

おのれら九人で
かってに
つくりあげた
架空の人間よ…
他の連中に
じぶんたちの
地位を
おそわれるのを
おそれて…

さも
いるように
みせかけた
……
まぼろしの
人間じゃ

ちがう
ちゅうのん
かい
うっ…
うおおおお!!
うげっ

許さん
ああ……
鬼頭さんを
それ以上
ばかにするのは
……
うう……
ぜったいに
ゆるさん
きっ……
きさまら
――っ

たしかにきょうの呼びだしは鬼頭さんじゃねえ……
ふふ…
ヒッ
はっきりいって鬼頭さんの耳にはてめえのことなんざ入れてねえ
なにい——っ
そうとも……

鬼頭さんは
てめえのこと
なんざ
しらねえのさ
……
いままでの
ことは　たしかに
おれたちの
演出だった
……
しかし
そのやわらかい
演出も
今晩が　さいごだ
てってい的に
おんどれの
根性を
たたき直す!!
鬼頭さんに
さからえん
ようにな!!

それからだ
鬼頭さんに
しらせるのは…
だから
おれたち 九人が
鬼頭さんだと
思いたければ思えっ
くっ……
くくっ……
くっ……
おお〜〜っ
おお
——っ

ぐわあ——っ
やったな…
きさまら
ぜんぶ……
みな
殺しに
したる
そうすれば
はっきり
するはず
じゃい

鬼頭めがっ!!
うおおお——っ
りゃあ あ——っ
ぐわっ

不死身か
このガキ
けーっ
いっぺんに
かかって
ぶちのめせっ
おお
――っ
くそ
ガキーッ

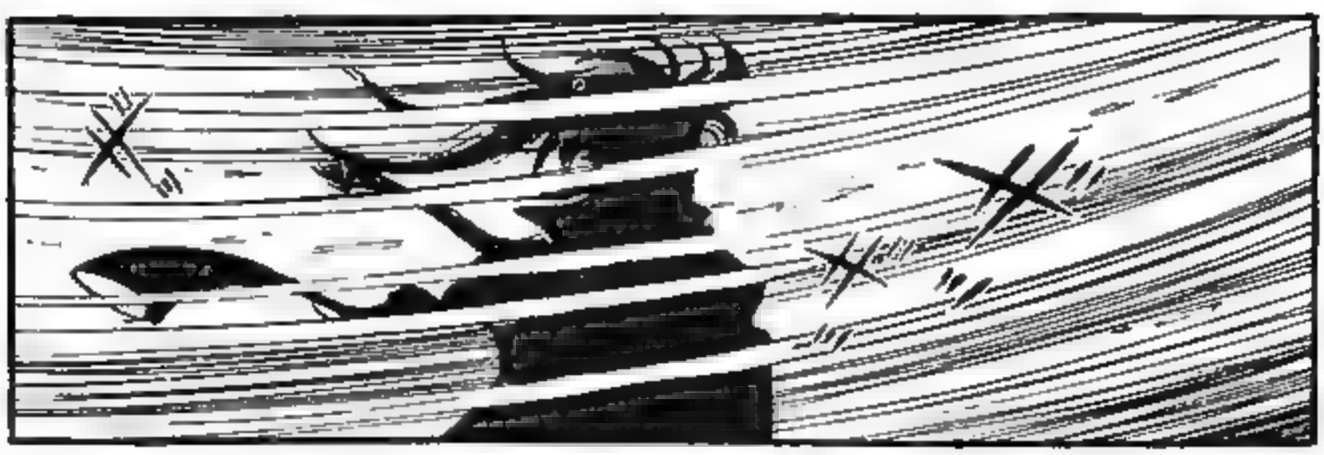
あっ!!
うっ
まっ
まさか……
おい
きっ……
鬼頭さん……
なにい——っ

鬼頭さんだ
ありゃあ
鬼頭さんに
ちげえねえ
そ……
そんな
ばかなっ

鬼頭……
いたのか
ほんとに…

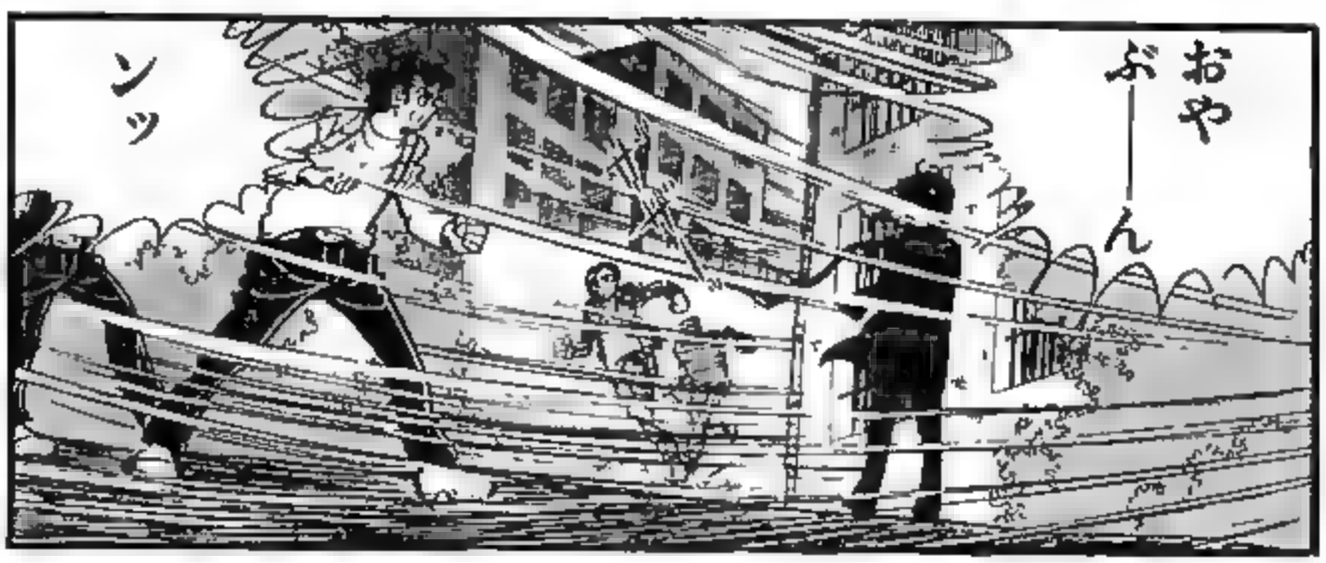
そうだ……
そうだよ
あのカミの毛と
いい……
あの歩き方
といい

そんな…
そんな…
ほんとかよ
～～～～っ
おい…



鬼頭にあわせろの巻

やっ
やろう
……っ


おや
ぶ――ん
ソッ

銀次!!
綱村!!

おっ……
おやぶん

やめてくれっ
親分
鬼頭さんと
あらそうのは
やめてくれっ
!!
な……
なにいっ

おっ…
おまえら
……
ふっふ!!
そうすることだな
万吉(まんきち)さん…

なぜだ
どういう
わけだ銀次(ぎんじ)!
お前ら
までっ!!

それに…
この連中は
いったいなんや
ちゅうねん

自分たちの大将がでて来たちゅうのに……
腰をぬかしやがるとは…
いったいどないなっとんのじゃいっ
鬼頭さんは鬼頭さんは……
もういいかげんに教えてやるか
万吉さん……

へっ
ヘルス……
ズ
おっ
お前か
……
おんどれ
だったん
かいっ
ふふ
それはちがう
ちょいと
おどかしただけだ
鬼頭の
かっこうでな
……
きっ…
きさま
……
な…
なんて
ことだ……

おどかし
やがって
おんどりゃあ
――っ
かくしといて
どうなる
てえんだっ……

話して
やれよ
鬼頭のことを
……
そうすりゃあ
この万吉だって
わかってくれる
はずだろう

うう……
くっく……
親分……
ほんとだ…
鬼頭に
さからったって
どうにも
なるもんじゃねえ
えれえ野郎
だよ……
やつは……

ついて来なよ…
万吉さん
……
なにい……
どこへ
行くんじゃ…
鬼頭に
会わせてやる
……

てめえら
文句ねえな
……
ううう
……

今晩は
新入りとして
じゃねえ
この特少の大先輩
としていう…
また
鬼頭の友達と
してな……

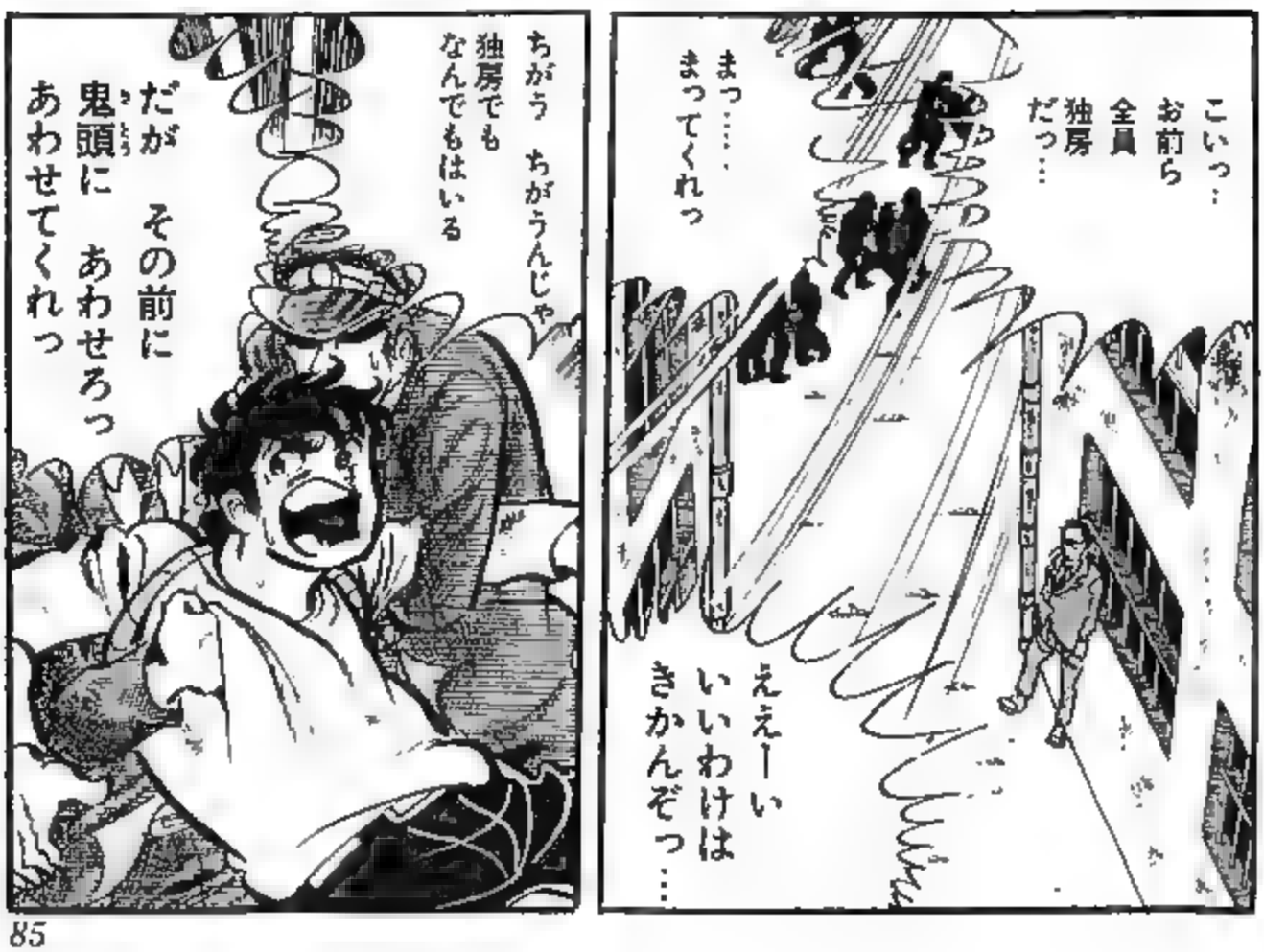
しかた
あれへん……
ここまで来ちまったら かくした所で どうにもならん……
鬼頭(きとう)は……
すぐこの裏手にいるぜ……

すぐ
そこ
だよ……

くそーっ
この状態で
鬼頭のことを
しらせると
まずい……
へんに
まとまりおって
とんだ
計算ちがいだ……

万吉が
鬼頭の本体を
しったら……
やつめ　戦わんかも
しれん……
すぐ
つかまえろっ
独房へ
ほうりこむん
だ……
はっ

ガガガ
きさまら……
むだんで　なにを
やっとるかっ……
うっ
ちいっ
ううっ…
いまは
就寝時間の
はずだぞ…


こいっ…
お前ら
全員
独房
だっ…
まっ……
まってくれっ
ええーい
いいわけは
きかんぞっ…
ちがう　ちがうんじゃ
独房でも
なんでもはいる
だが　その前に
鬼頭に　あわせろっ
あわせてくれっ

ええーい
だめだ
だめだ
こいっ
くそったれーっ
けちけちさらすな
すぐそこじゃ
一分もかからんや
ないけっ
いかんと
いったら
いかん……
もう
たのまんっ
ぐわっ
ちいーっ
じゃまする
やつは
ぶっ殺す
ぞーっ
ひっ

うおお
〜〜〜っ

ガ
ガ

ああ…

あっ

ふふ…
だてに　所長は
やっとらん
……
みたか
空手
三段の
腕を…
つれて
行けっ
……
はっ…

ゴト
ゴト

ガタゴト
ガタゴト
ずいぶんひどい山奥ね…
えっ、ええ…

こんな山奥で
さらに 高い
へいの中か
かわいそうだわ…
銀次…
…
でも
肉親でも
ないのに
だいじょうぶ
かしら…
そんなこと
強引に
たのめば
なんとか
なるわよ…
絶対に
面会させて
くれるって
そっ…
そうね…
なんだね…
あんたら
ふたりだけで
あの特少へ
行くのかね…
えっ…
ええ
そっ…
そら また
いい度胸
じゃのう
…
土地の者でも
気持ち悪がって
めったに
近づかん
のに……
気持ち
悪いって…
なんで…

あっ…
ああ…
二年ほど前
だったかのう
……
わしらも
原因は
よく
しらんのじゃが
……

にっ…
二十人…
も……
死んだん
ですか…

収容生と
教官が
いっぺんに…
二十人ほど
死んだことが
あるんじゃ…

ああ…
なんでも
だれかに
殺された
らしいのじゃよ
……

それ以来
みんな 気味
悪がってのう
……
ほんに 今じゃ
だれも 近づかん
のじゃ…

バスは
ここまでじゃ
……
あとは　歩いて
行きなさい……
どうも
……
とっ……
友子ちゃん
……

目の前まで
きていたんや
鬼頭のガキ……
目の前
まで…
それを…
くそーっ
……
あわして
やるぜ…

あっ！
あれは
鬼頭さんだ…

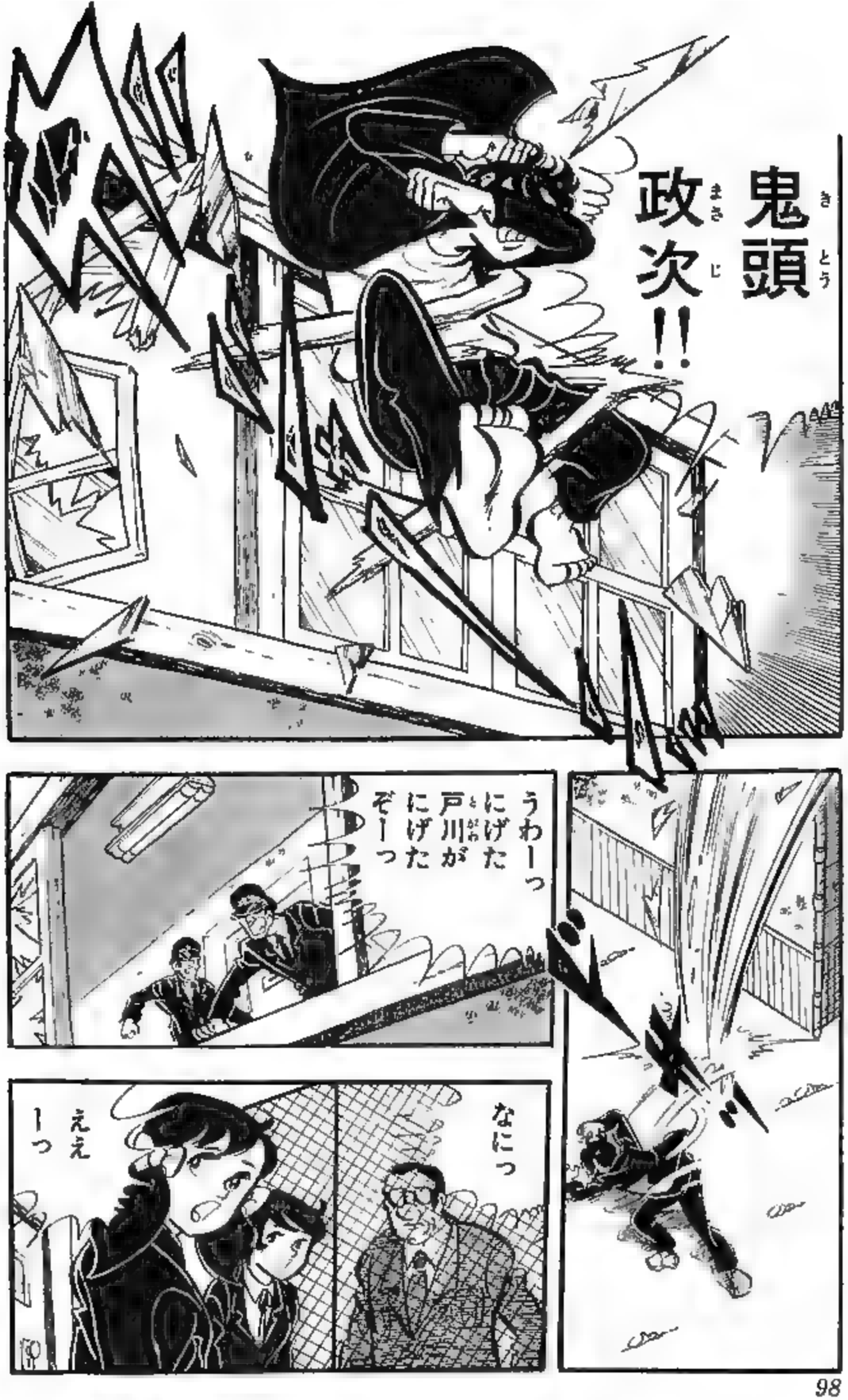
すぐそこに
いる……

そんな
……
ばかな…

もしや…
……

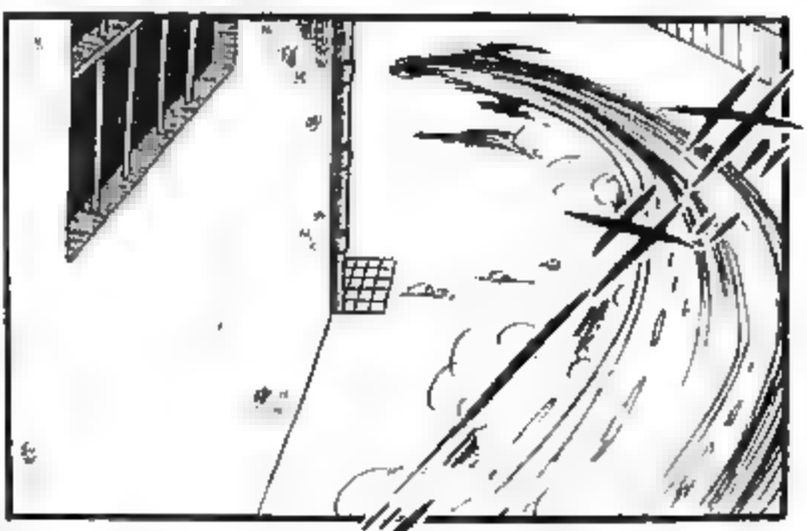
いや
そうだ……
きっと
それに
ちがい
あれへん…
でろっ
戸川…
なっ…
面会だ
……
特別に
だして
やる…
チャンス
……
チャンス
だ……

うおおおーっ
うぎゃっ!!
うわっ
鬼頭!!
鬼頭


鬼頭政次!!
うわーっ
にげた
戸川が
にげた
ぞーっ
なにっ
ええーっ

鬼頭!!
鬼頭!!
おんどりゃ
あーっ
!!

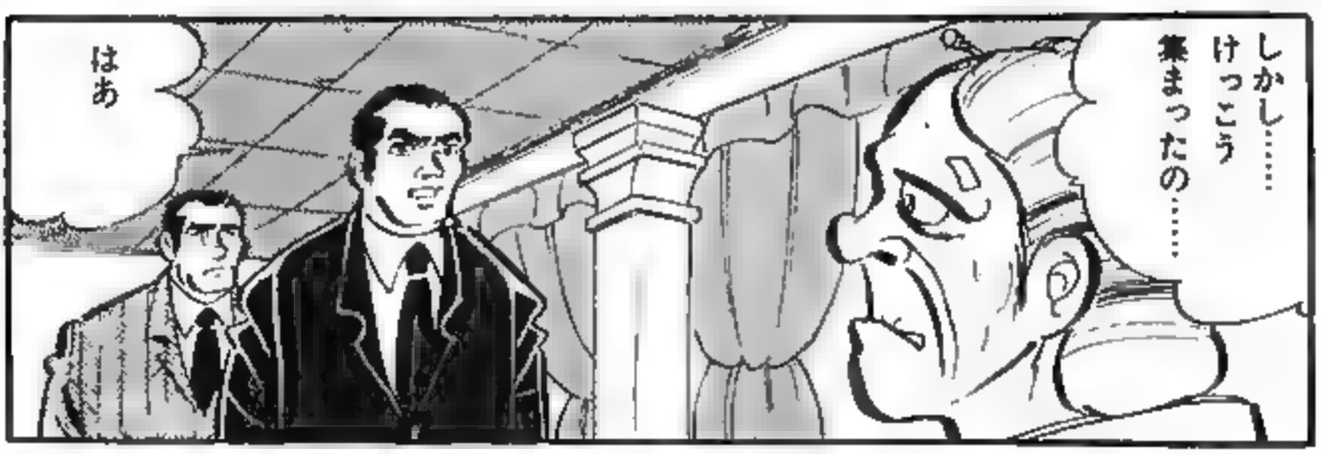
はあ!



はあ
はあ
はあ

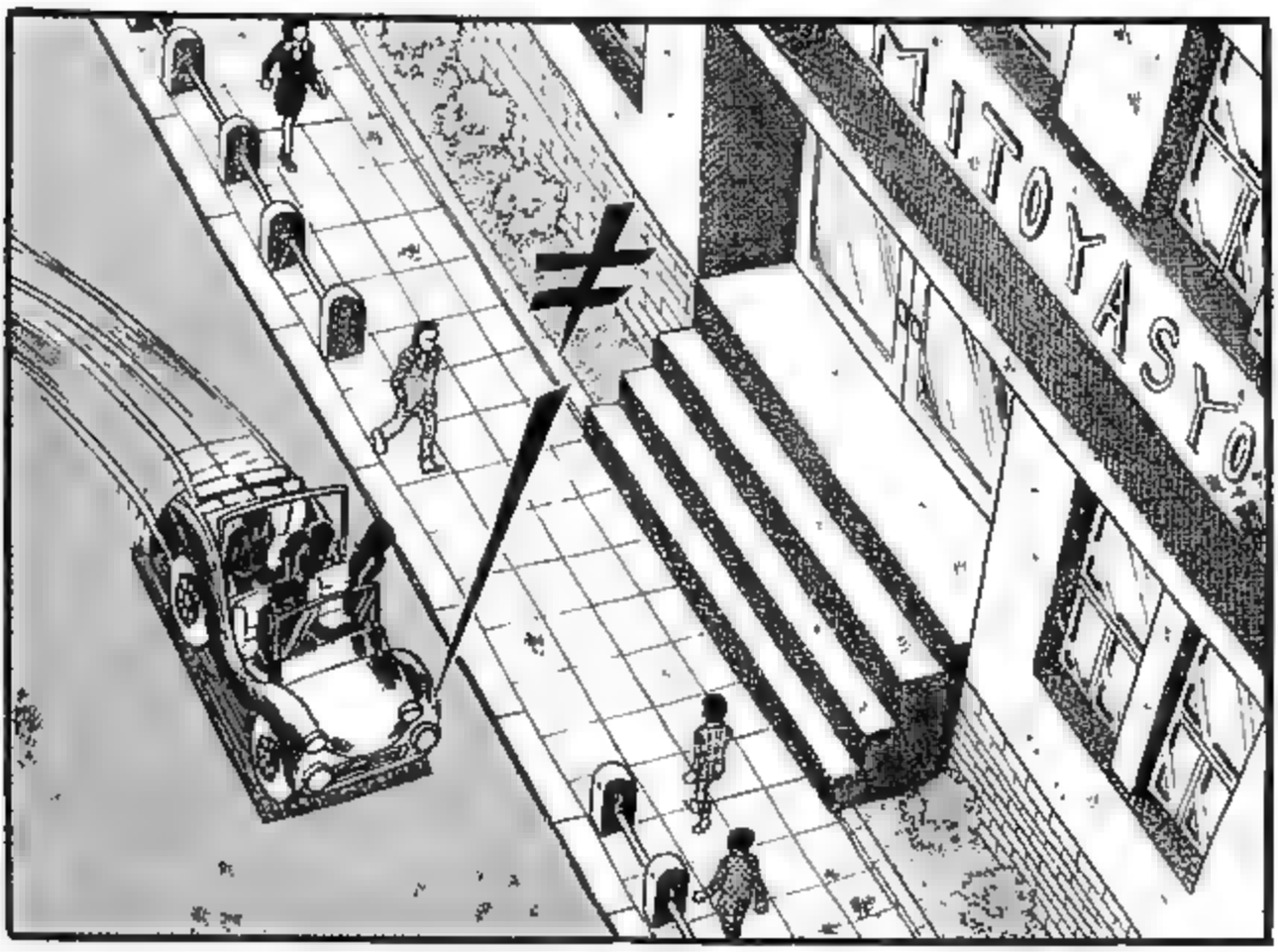
やはり
こっ…
これが
お前
やったんか
!!

鬼頭の正体の巻
うむ……
ごくろう……

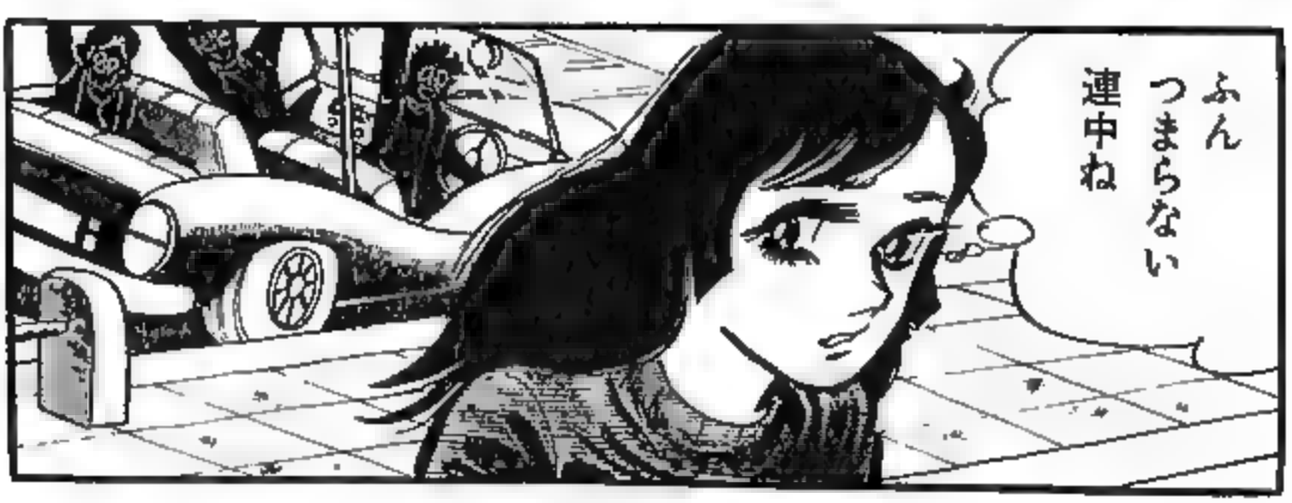

しかし……
けっこう
集まったの……
はあ

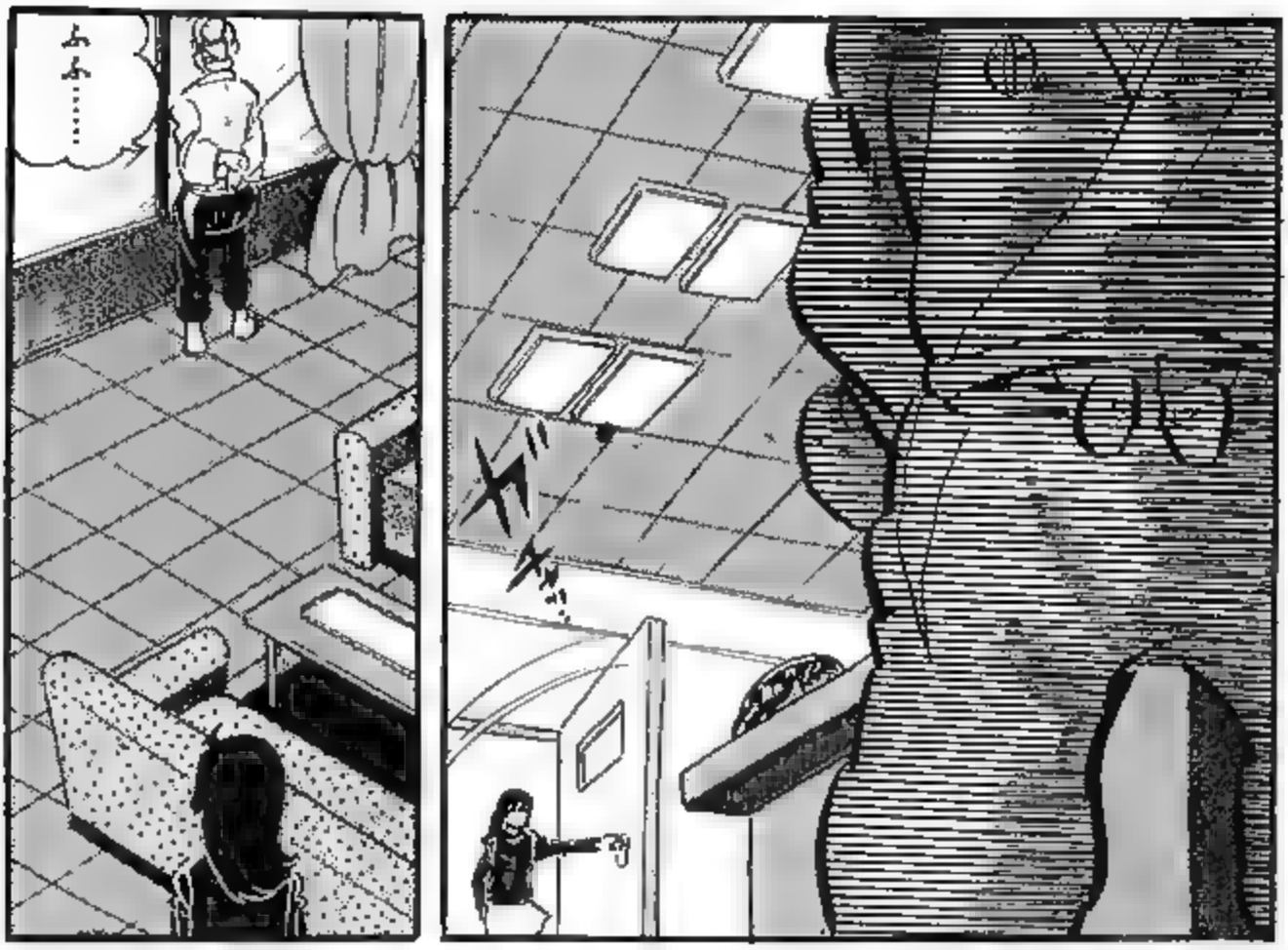
昭和ハウスの人気も
いまは 天井を
すぎて
おります
おそらく
これからは
くだる一方
でしょう
それがいま
上りを見せています
売り損じた連中は
売り時と思って
いるのでしょう
ふふ……
まさかこの上りが
水戸会長の買いしめ
とは 気づいて
おりませんからな……

ふふ……これで
わしの持ち株が
約18パーセント
昭和ハウス
社長
稲垣が
20パーセント
これは
むりとして
あと
重役連中が
あわせて
30パーセント……
それが
ヤマだな……
よいか
くれぐれも
わしの買いと
気がつかれるな
少なくとも
30パーセント
手に入れる
までは……
はっ……
みておれ
昭和ハウス
かならず
わしのものに
してみせるて
……
そして
……
万吉……
おぬしも
のう……


TOYASU

こづかい
ガバッと
たのむぜ
はっはは……
がんばって
こいよ
あゆみー


ふん
つまらない
連中ね

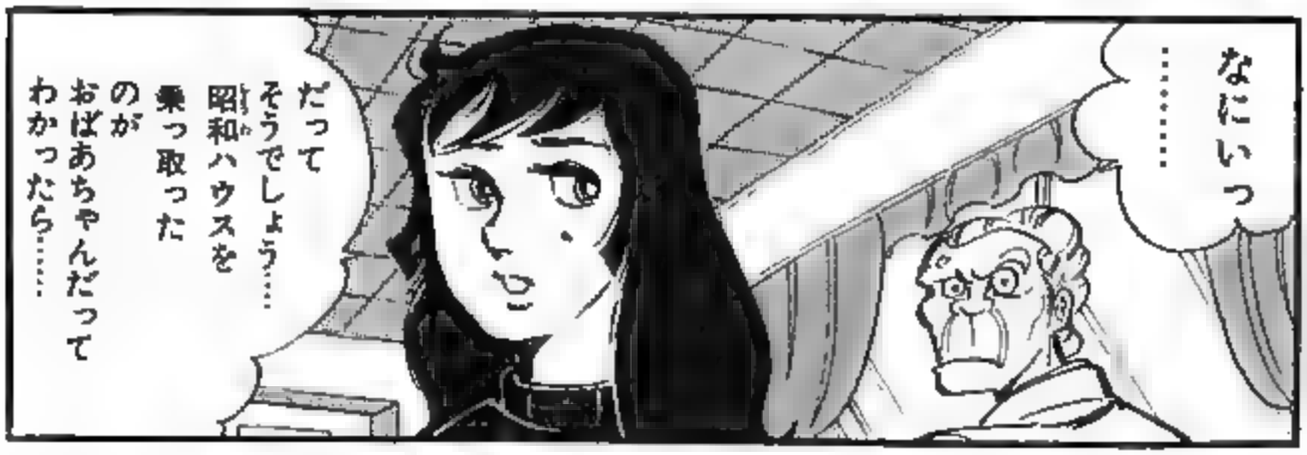

ふふ……
ガチッ

なにがおかしいのおばあちゃん
もう少しましな男とつきあったらどうじゃあゆみ！

あんなモヤシ連中あれで男かな……まったく！
そのことできたのよ

万吉のこと
いろいろ
しらべたわ……
どう
じゃった……
なかなか
かわいい顔して
るわね……
それに
感じも
わたし好みよ
……
ふふ……
ほれるなよ
あゆみ……
男でも 女でも
ほれたほうが
負けじゃ
まさか
わたしは 男なんて
下等なものには
興味ないもん
ふふ……
小娘のくせに
こなまいきなことを
いいおるわい……
まあ
みていてよ
おばあちゃん
……

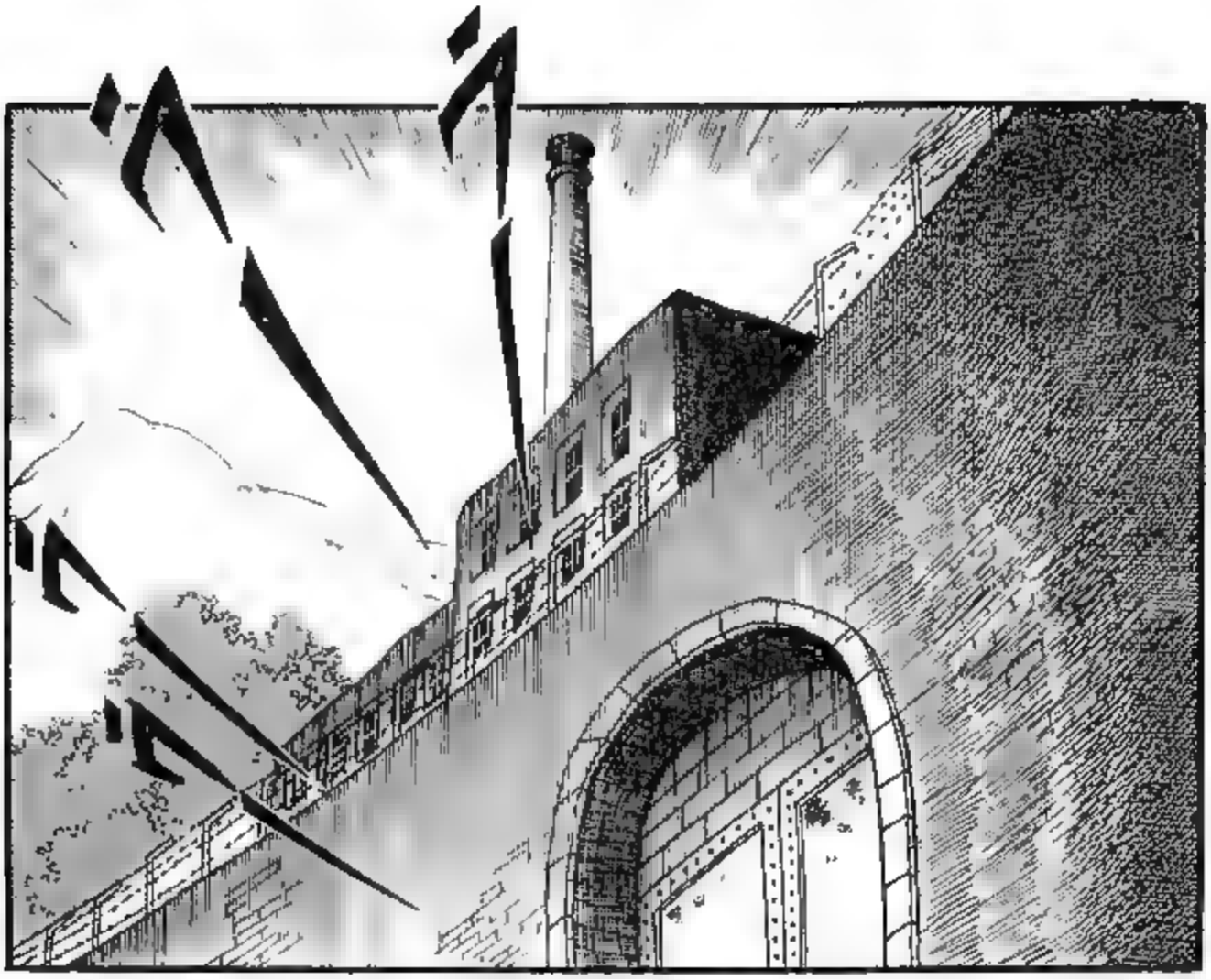
それより 万吉を まだ 少年院から ださないの……
ああ……昭和ハウスの 乗っ取りが すんでからじゃ
どこにも 行き場所を なくしてから……
保釈金を つんで出して やるつもりじゃ
ふふ……おばあちゃんも あんまり りこうとは いえないわね……


なにいっ……
だって そうでしょう……昭和ハウスを 乗っ取った のが おばあちゃんだって わかったら……

いくら保釈金を つんでくれたとしても……
おばあちゃんに たいして 燃え上るわよ……
そうなったら 少年院をでて 目的を 作らす ことになる……
ちがう……？

うわっは
ははは
はっはは
……
ふふ……
こりゃ
まいった
わしの
負けじゃ
はっははは……
いったん　なんかに
燃え上った
男には……
女が
はいりこむ
スキが
なくなってくるわ……
それで
どうしろと
いうのじゃ
いま　すぐ
少年院から
だすべきね……
それで
……
でて　すぐは
おそらく
なにをしていいか
とまどうはず
……
その時よ……
その時に
わたしたちが……

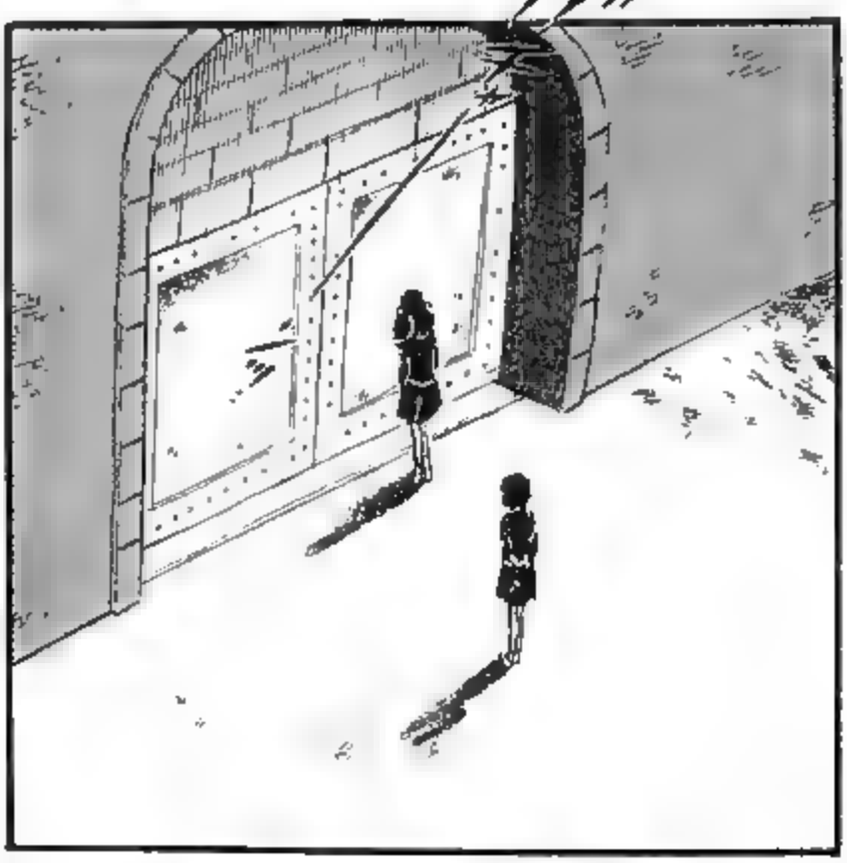
いえ
わたしが 万吉にはいりこんでみせる……
その間に昭和ハウスを乗っ取ればいいじゃない……
なるほど……
なるほどのう……
はっはは
はは……
しかし それは……
おまえが 万吉をトロトロにできたらの話じゃ
できるかの……
ふふ……
なめないでよおばあちゃん……
ほ～～～っ
よっぽどの自信があるとみえるな……
おもしろい……



まっ……
万吉さんが
にげた……

あの～～
この建物の
外へですか……
いや……
そうじゃ
ないらしい……

いかん……
とにかく きょうは
あわすわけには
いかん！
そっ……
そんな



まっ……
万吉さん

鬼頭……

万吉！
戸川万吉
どこに
いる
かあーっ
ン……

わからん
これが
おまえだとしたら
……
こい
万吉……

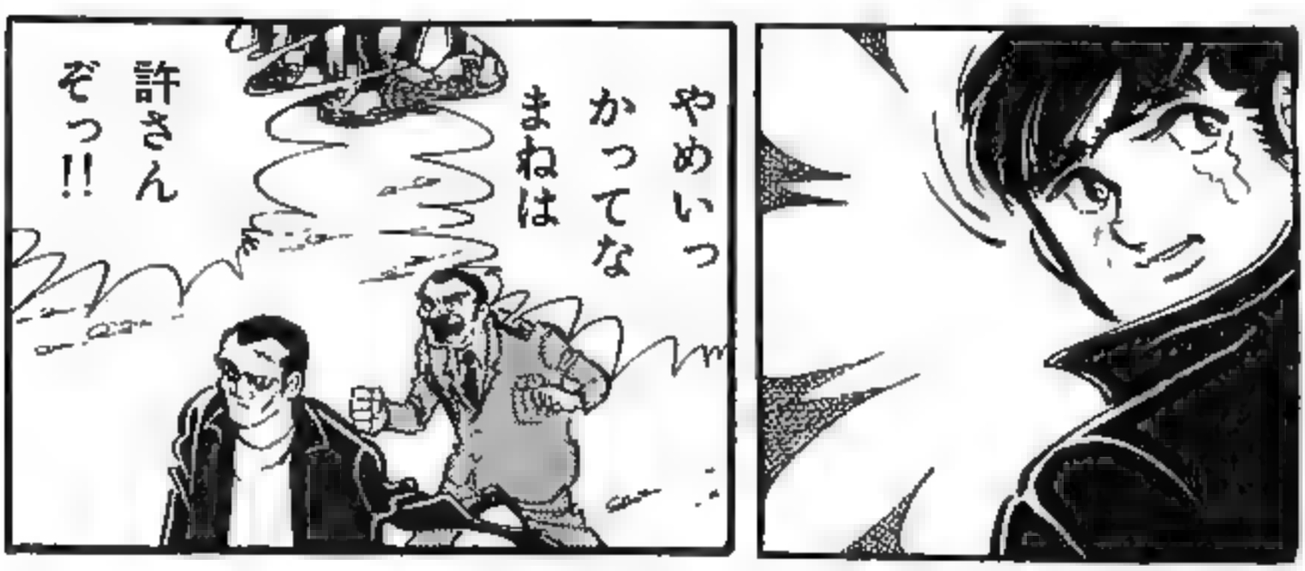
なぜ
あんなにも
さわがれたんや
……
なぜ
や～～～っ

こいっ
万吉(まんきち)！
うごく
なーっ
ムッ……

くっ……
なっ
なんだ
おまえら……
帰れ帰れ
もどらん
かっ!!

う……
万吉さん……
教えてやるぜ
鬼頭さんの
ことを……

おれたちの
はじを
しのんで……
いま
ぜんぶ
話す!!


やめいっ
かってな
まねは
許さん
ぞっ!!

そりゃあ
そうだ
ろう…
あんたらに
とっちゃあ
ぜったい
しられたく
ないことだっ

ううう

おれたち
十一人にとっても
はやく
わすれたいこと
だぜ……
だが
話さなきゃあ
ならねえ
忘れちゃあならねえ
……

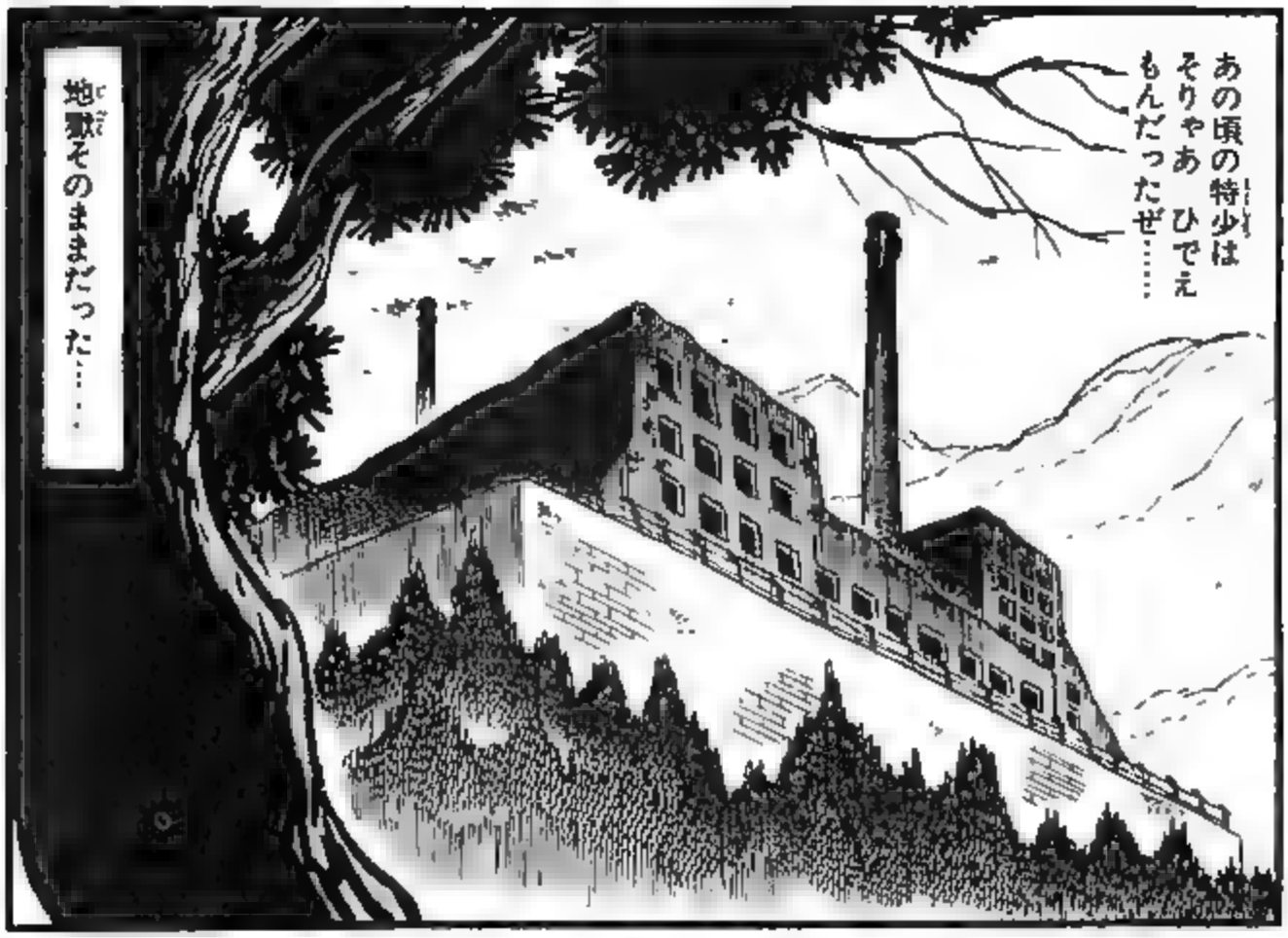
鬼頭政次の
正体は
目の前にある
これだ

ええーっ
なっ……
なんだって
え～～～っ…

こっ……
こんなもん……
前から あるの
しってたけど…
なんだい
こりゃあ……
総部屋長
鬼頭政次の
墓だっ

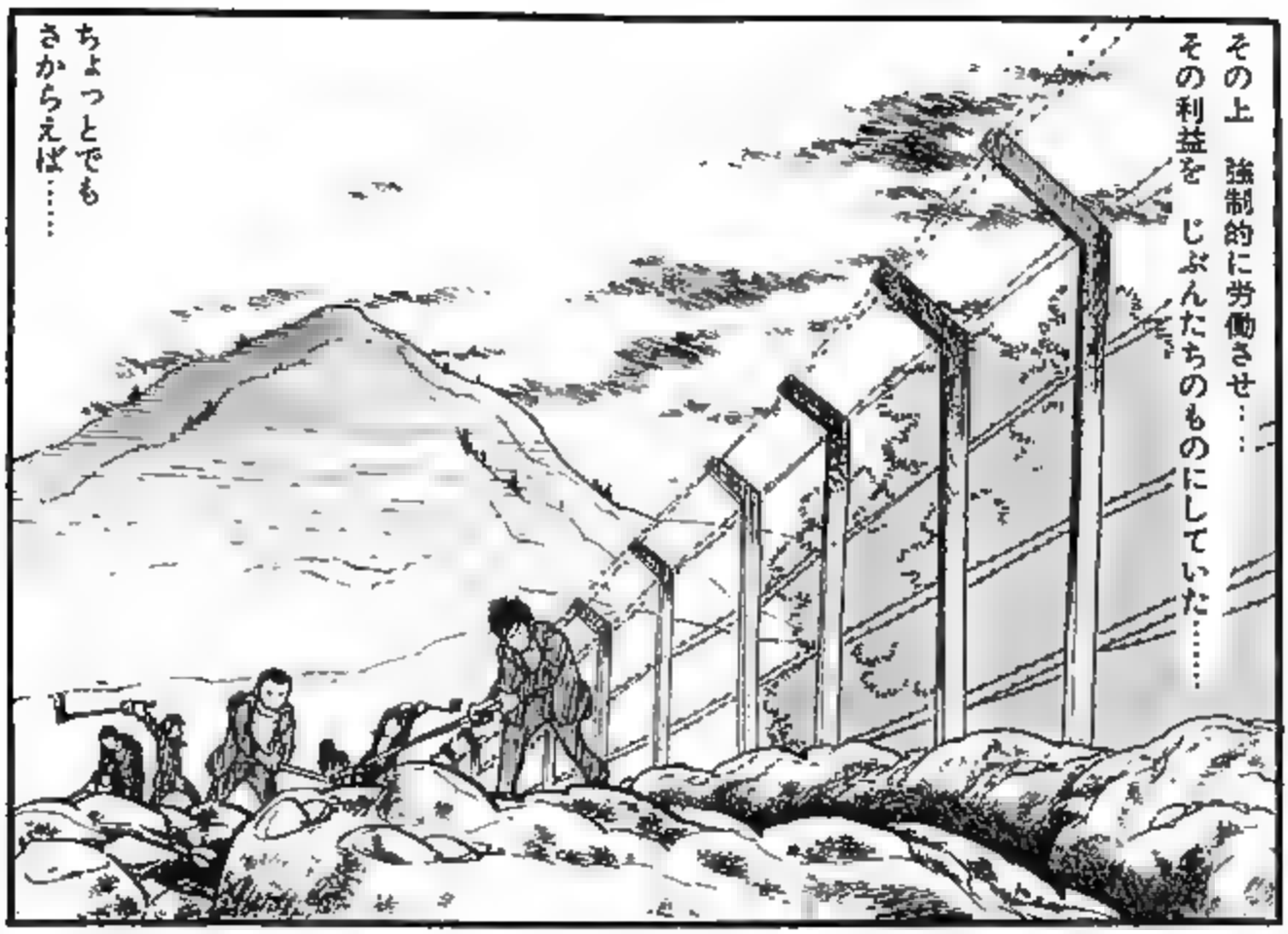
ええーっ
えっ……それじゃ
しっ…死んでる
のか……
ケッ
なんでえ
ばかばかしいっ
……
まったく
よ……
死んでる
人間なんぞ
まつりあげ
たって…

ばかもろっ!!
うわっ
てめえらみてえな三下じゃぜったいできねえ……
死に方だ……
おれもヘルスに話を聞いた時にゃあまいったぜ!
ああ……
きさまらもようく聞いておけっ!!


あの頃の特少はそりゃあ ひでえもんだったぜ……
地獄そのままだった……

教官どもが 何人かの部屋長を てなづけて院生の食費や設備費を
ごまかしてピンハネしてたんや…

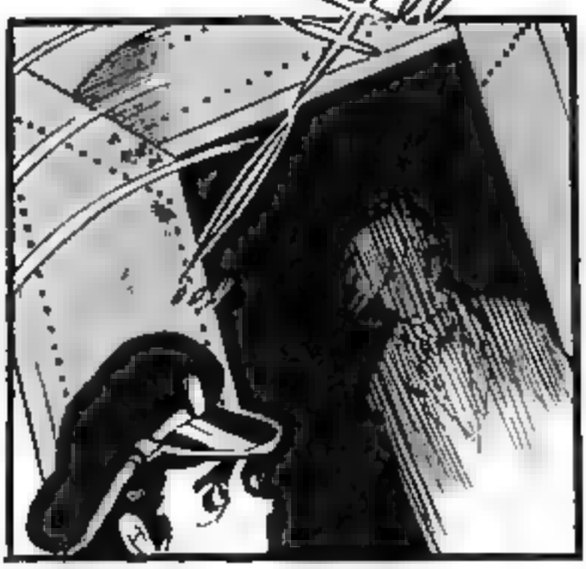
それこそ みんな……
栄養失調寸前だったぜ……

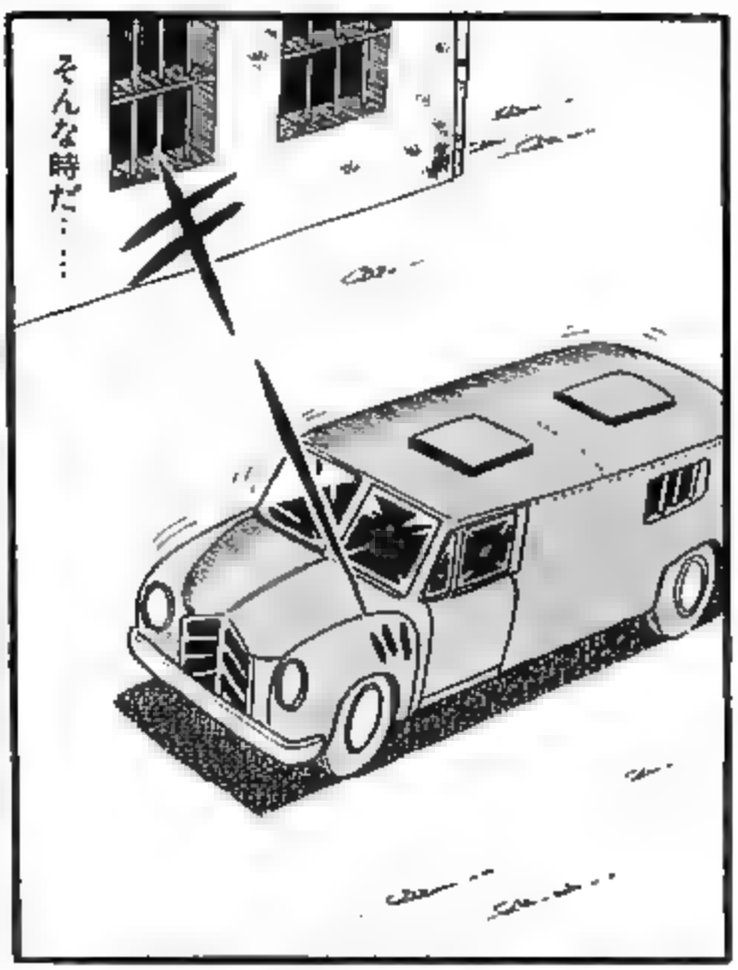

その上　強制的に労働させ…
その利益を　じぶんたちのものにしていた……
ちょっとでも
さからえば……

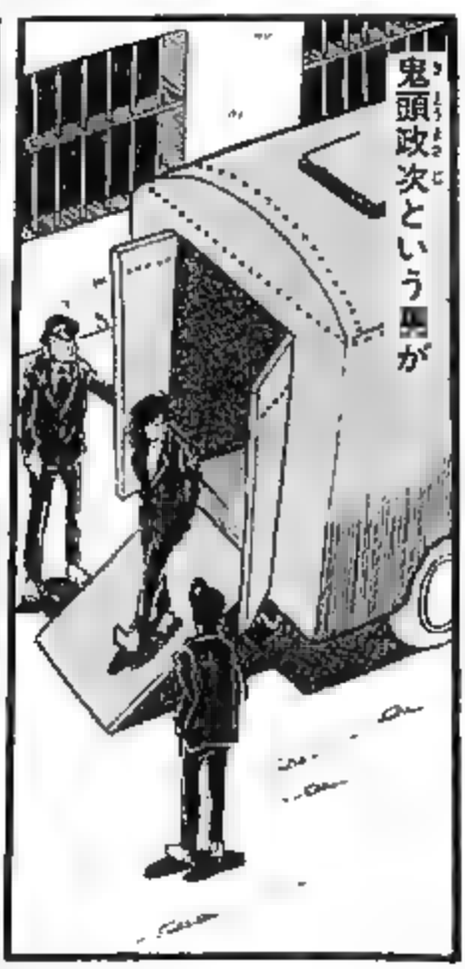
なぐる　ける
ひでえリンチだ…

そのため
死んだ院生も
なん人かいたが……
死因をごまかされ
闇にほうむられちまった

おりろ
鬼頭……




そんな時だ……


鬼頭政次という男が

やって来たのは

鮮血の抵抗の巻
殺人未遂か……
つれて行け……
はっ…
チンピラめ……

わしは
きさまらを
みると
むしずが走るわい
がきの
くせに
……
その所長は
むかし少年犯罪者
によって……
だいじにしていた
ひとり娘を
殺されたそうだ……
それいらい
異常な
までに……
少年犯罪者を
にくむように
なった……
ひい
——
っ
うわ
おあ
っ

この野郎——っ
なめた口をたたきやがってっ
ああ……
ううう……

作業がつれえだと……なまいきいうな!!
うわ——っかんべんしてくれーっ

いいませんもう二度といいませんうわっ
あたりまえだっ……

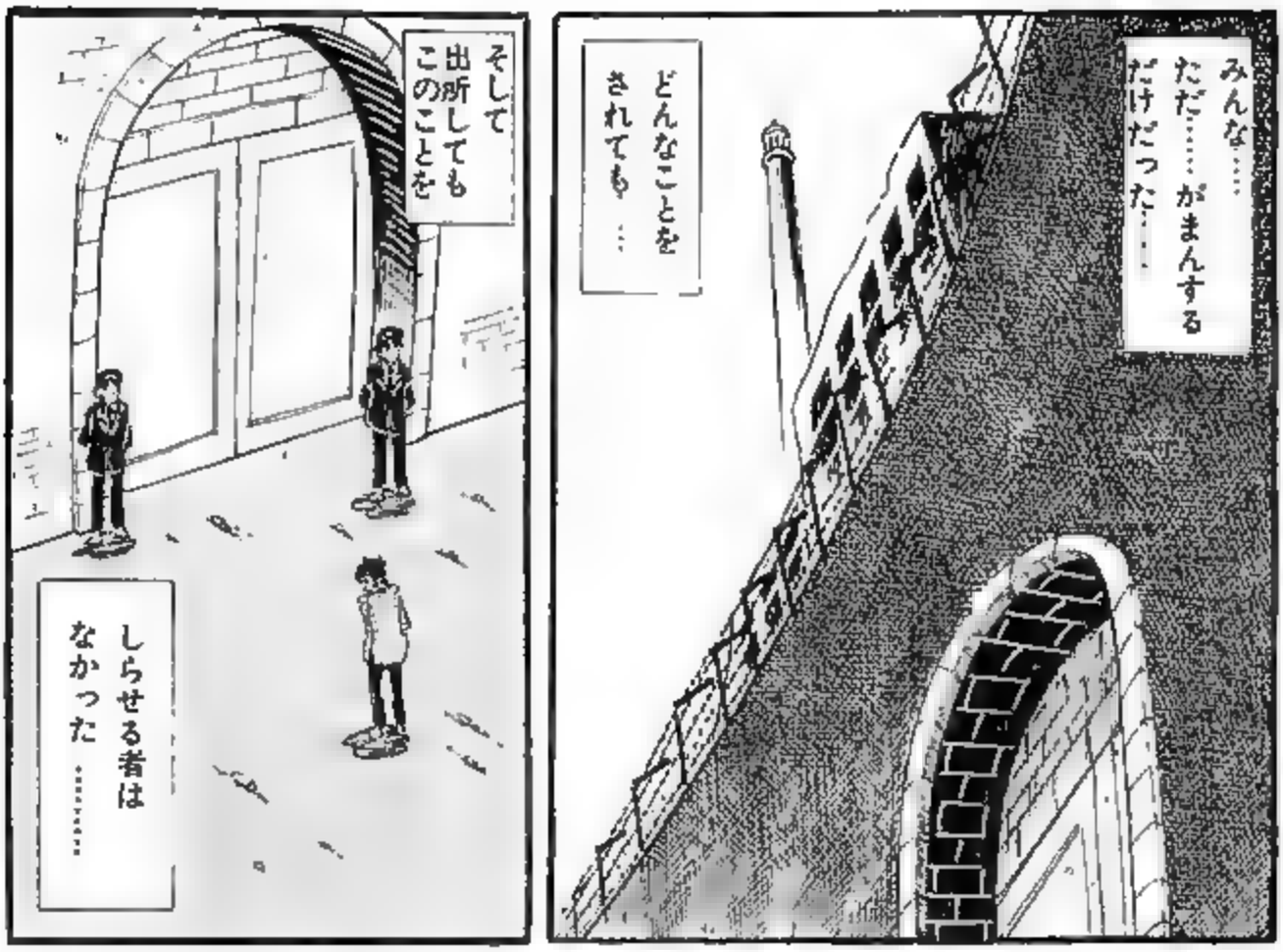
うっ!!
よしなよ…
ちょっと
ひでえぜ……
なに
〜〜〜っ
ばっ…
ばか
やめろ…
おっ…
おい・
新入りだな
きさま
……
ふふ…はやいとこ
この特少の空気に
なれることだな
そうすれば
二度と そんな
口はきけなく
なるぜっ……

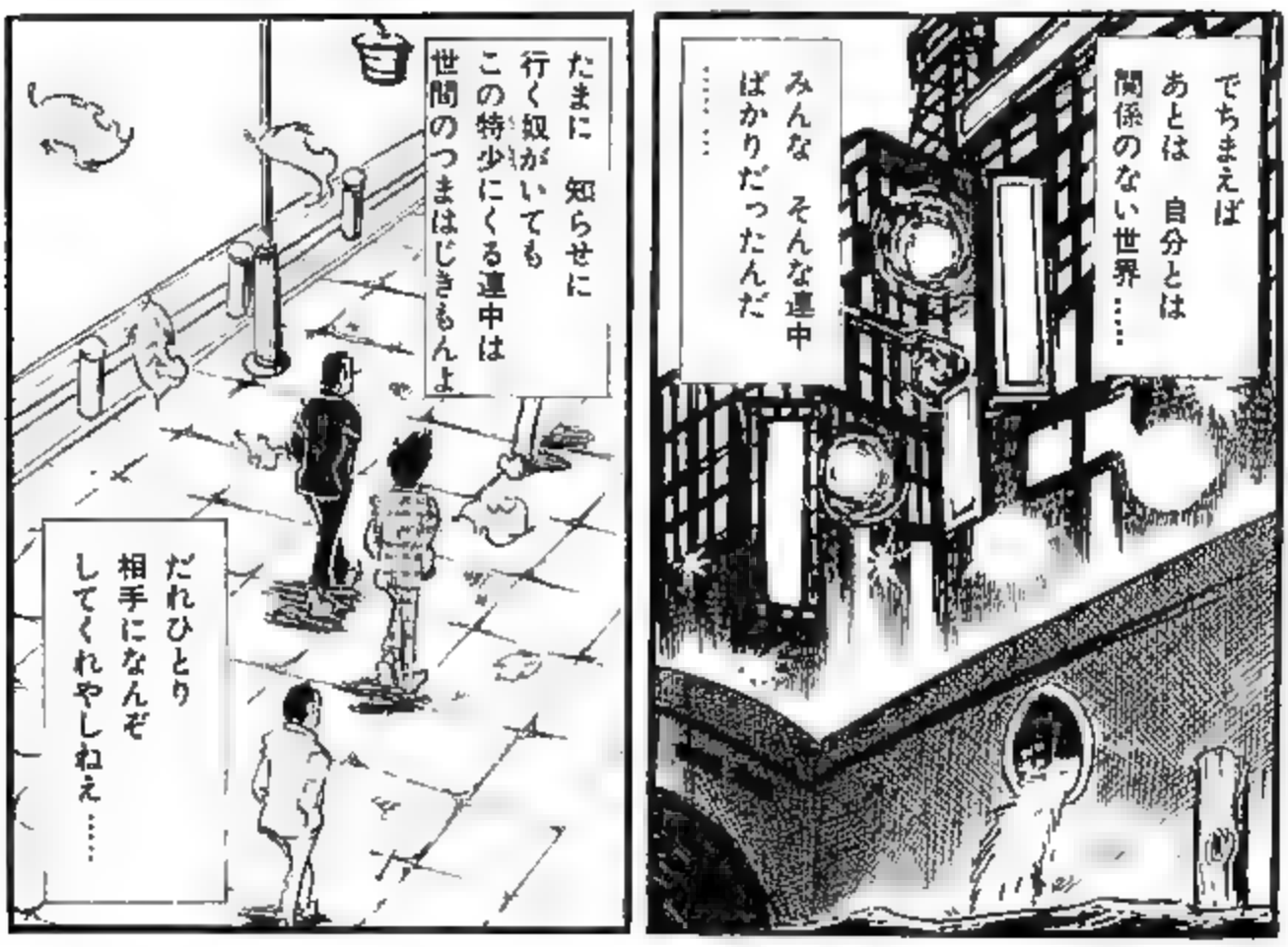
へっ…
へへへ
きさまらで
ようく……
教えてやれ
この特少の
しきたりを
…
わかった
かっ!!
へっ…
へい!
わかり
ました

ばかやろう
う――っ
うわっ
……
何をトロトロやっていやがるあまったれるんじゃねえぞ
やめろ！おいやめるんだ……

なんだ
そのつらあ
……
おれたちは
牛や馬じゃ
ねえぜ!
なまいきな
こと ぬかす
なっ!!
ふっふ……
新入り
てめえ たびたび
いっても
わからねえ
ようだな!
きょうは
たっぷり!

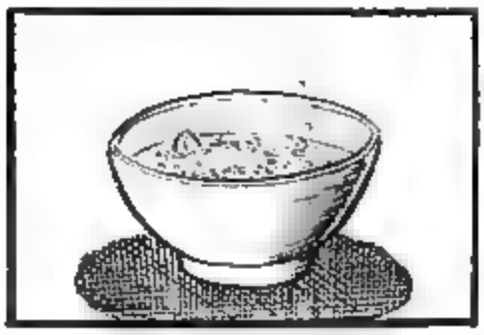
思い
しらせて
やるぜっ!!
この特少の
恐ろしさを
な――っ
うわあっ
ははは
ははは
は――っ
わあっ
はっはっ
はあっ
ははは

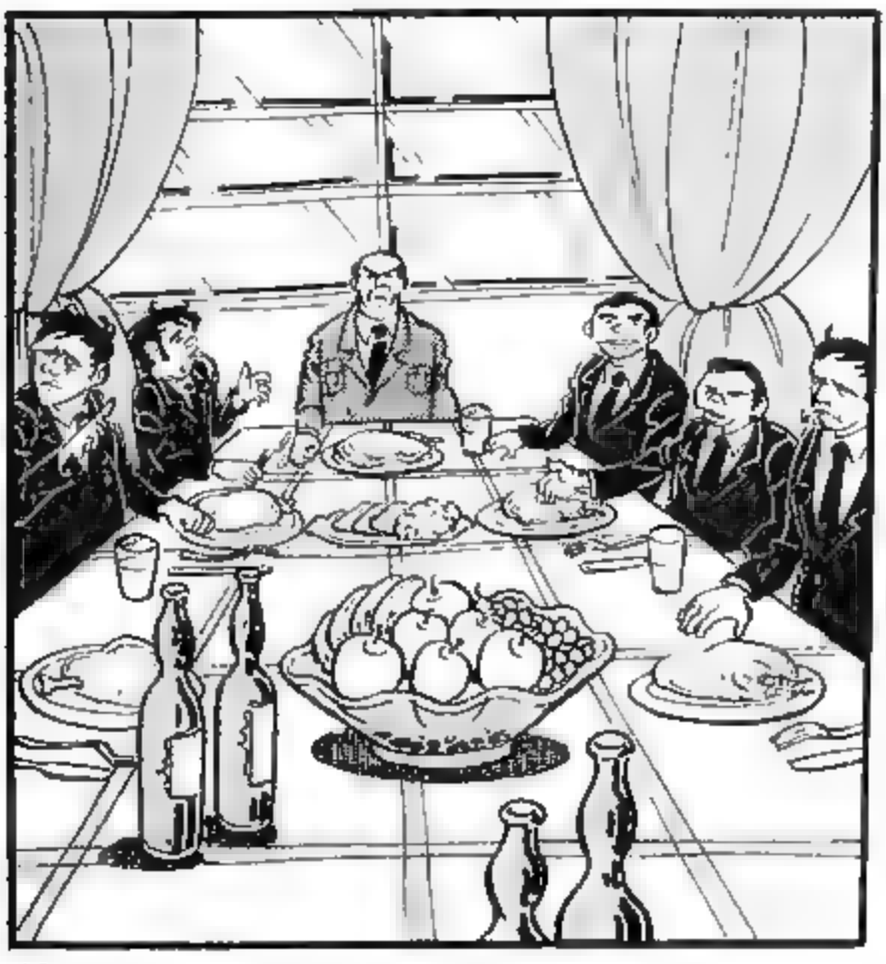

みんな……
ただ……がまんするだけだった……
どんなことをされても……
そして出所してもこのことを
しらせる者はなかった……

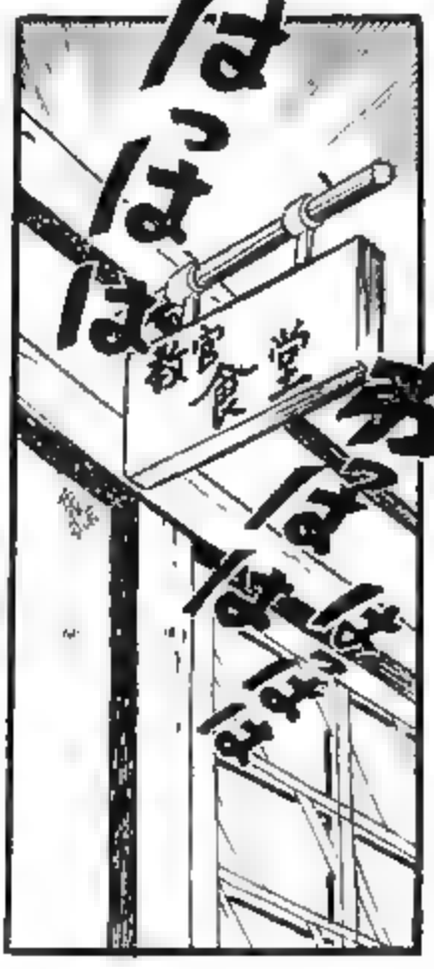

でちまえば
あとは 自分とは
関係のない世界……
みんな そんな連中
ばかりだったんだ
……
たまに 知らせに
行く奴がいても
この特少にくる連中は
世間のつまはじきもんよ
だれひとり
相手になんぞ
してくれやしねえ……

だが……鬼頭さんは……

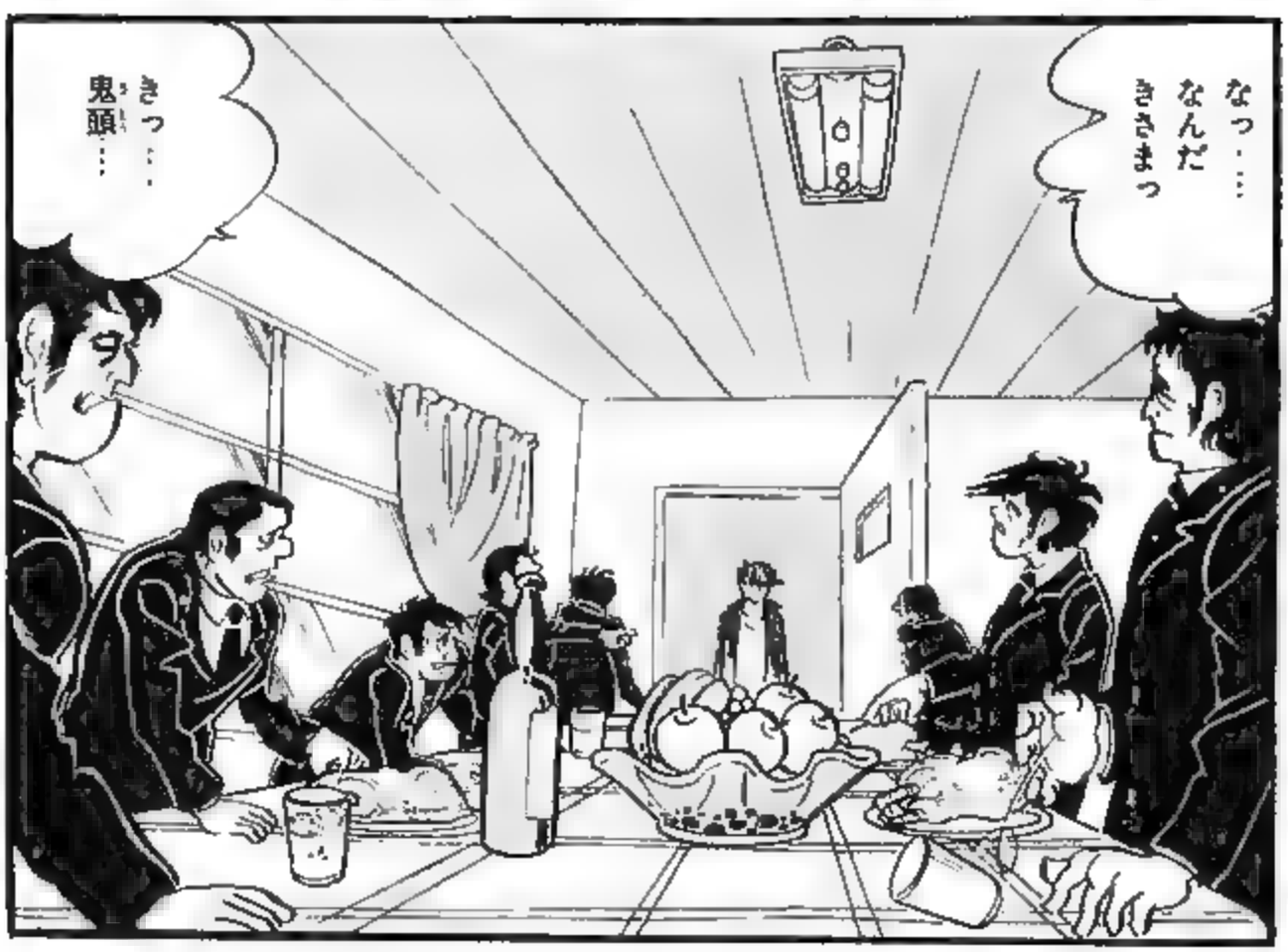
荒くれどもの正体は……
人一倍
臆病者ばかりさ






はっはっは
教官食堂
はっはっはっはっはっ

ン……
うっ……
ヤバ…


なっ……
なんだ
きさまっ
きっ……
鬼頭(きとう)……

おれたちの
めしは……
これだけ
だぜ……

うっ…
きっ……
きさま
……
うっ……

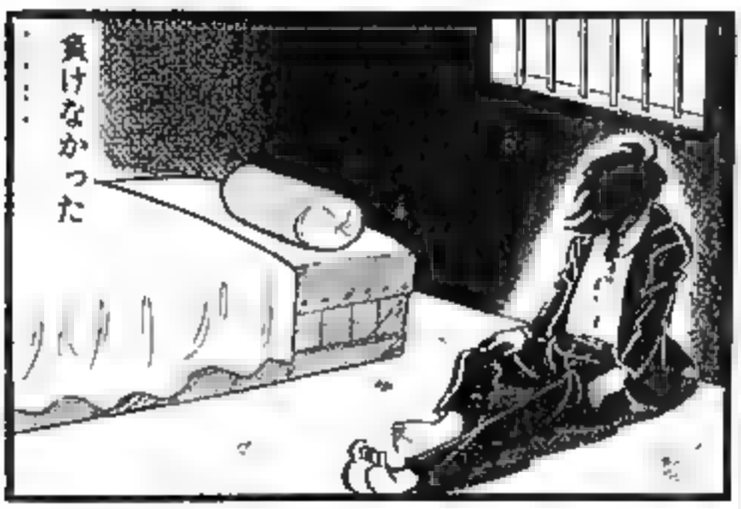
はっ……

その晩は
夜どおし
鬼頭さんの
入れられた独房から……
ムチの音が
消え
なかった……

ああ……
うう……

そうなっても……
まだ……おれたちは
何もできなかった…
なかには
鬼頭さんを 大馬鹿
あつかいしていた連中もいたよ

しかし
鬼頭さんは……
何度リンチを
うけても…


負けなかった
……

栄養失調と…
ごう問で
ずたずたになった
体を ひきずり……

すきを
見つけて……逃げだした……
この特少の実体を
世間に知らせるためにな……

くっ……
くくく……
うっ……
ふっふ……
ごくろう
だったな…
鬼頭(きとう)……

ひっひひ……
ひひ……
やれっ……
もっと
もっと
やるんだ……
へっへへ……
殺したってかまわん
ひっひひひひ……

うおお
――っ
みんな
鬼頭を…
鬼頭さんを
このままほっといて
いいのかっ…

いったい
だれのために
鬼頭さんはっ……
戦って
いるんだ!!
おれたちだぜ……
おれたちのため
なんだぜっ

やるんだよ～っ
おれたちも
いっしょに
やるんだっ…

そして……
あの大惨事が
起ったんだ……

あかつきの大惨劇の巻

おれたちも
鬼頭さんと
いっしょに
やるんだ
やるんだよ……

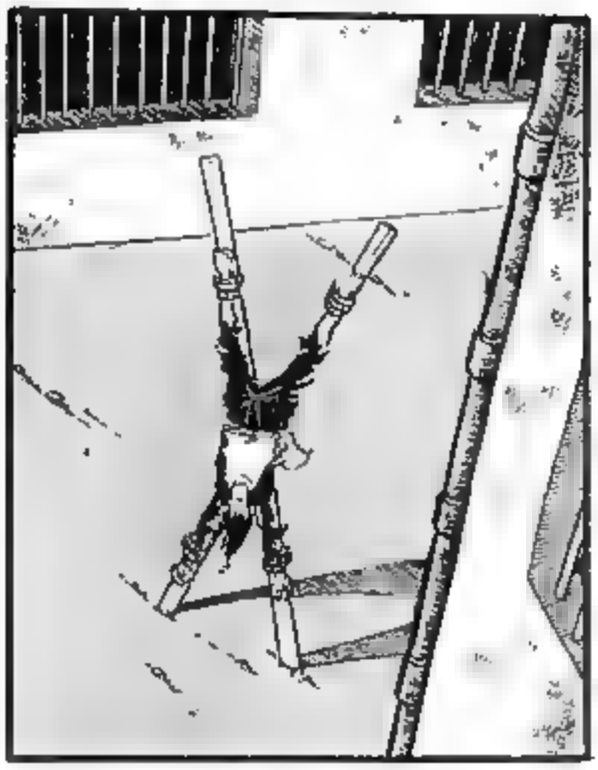
ガヤヤ
なにも
びくびくして
がまんしてる
手はねえ……
そうだ……
そうだよ
な……

はっ……
うっ

なんと
戦おうって
んだ……
ええ……
チンピラ・・
ううう
……

なんだい
……
なにを
やるんだ
ううう

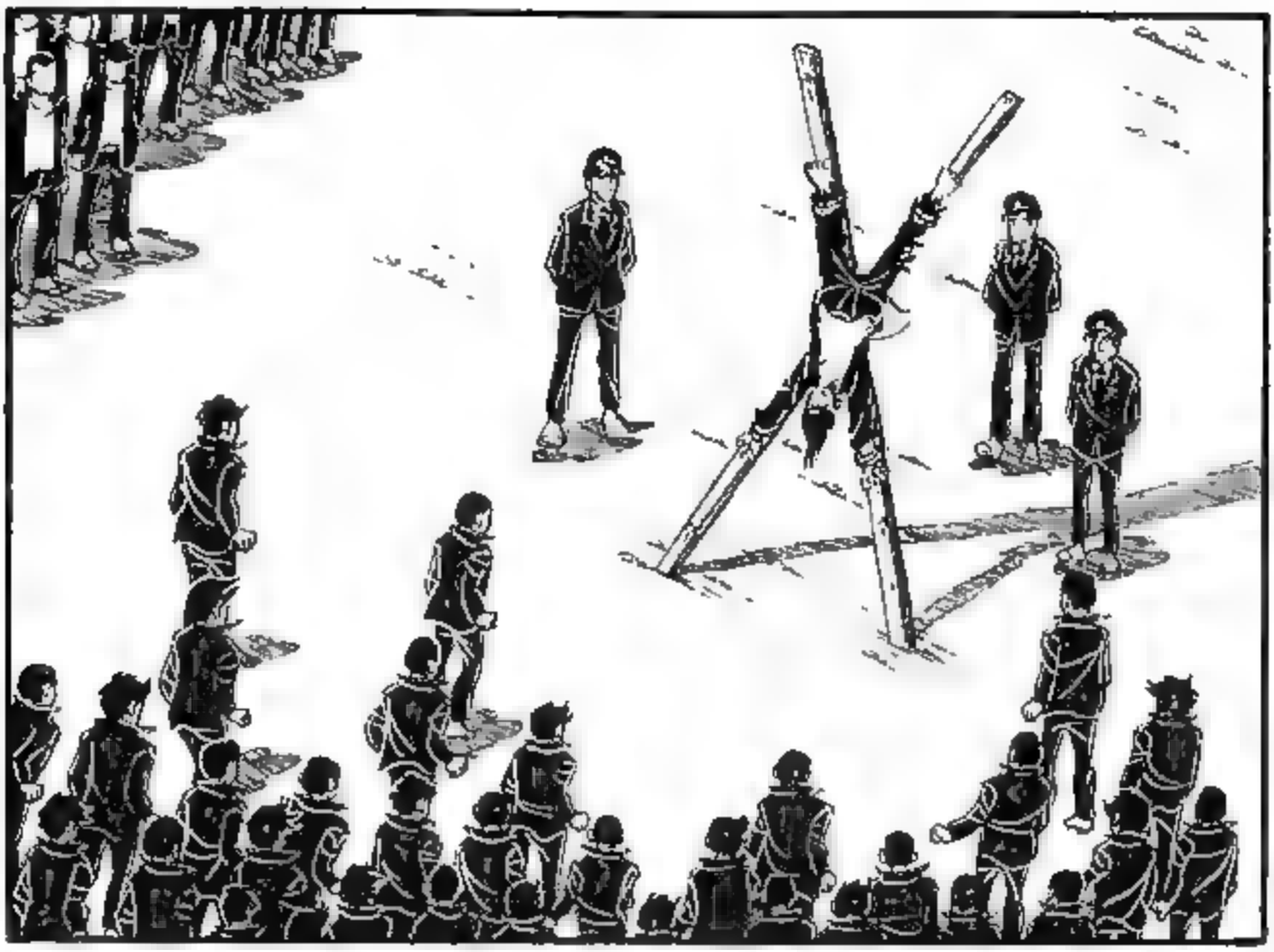
いってみろっ
うっ
てめえらみてえなカスが…
一人前の口をたたくんじゃねえ
なにが……おれたちもだ笑わせるな
ふふっ……わしらにさからうやつがどうなるか
おもてをみてみろっ…
えっ



鬼頭……
鬼頭さん……

ふふ……

ああ——っ

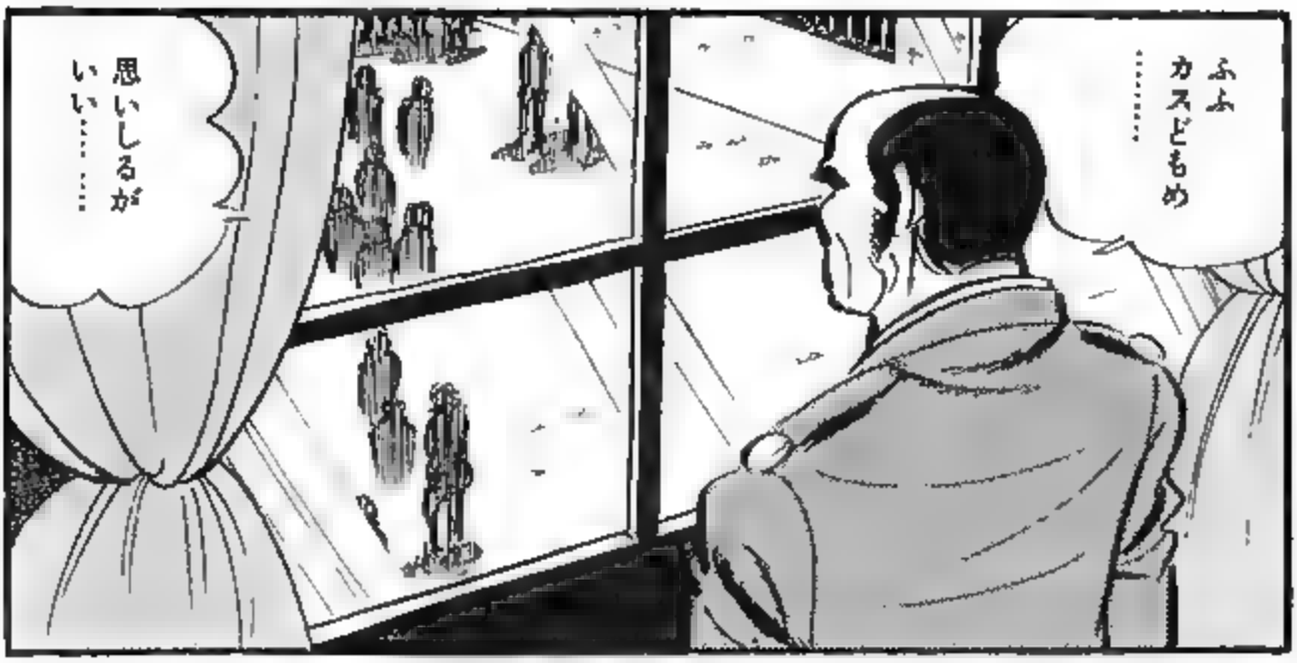


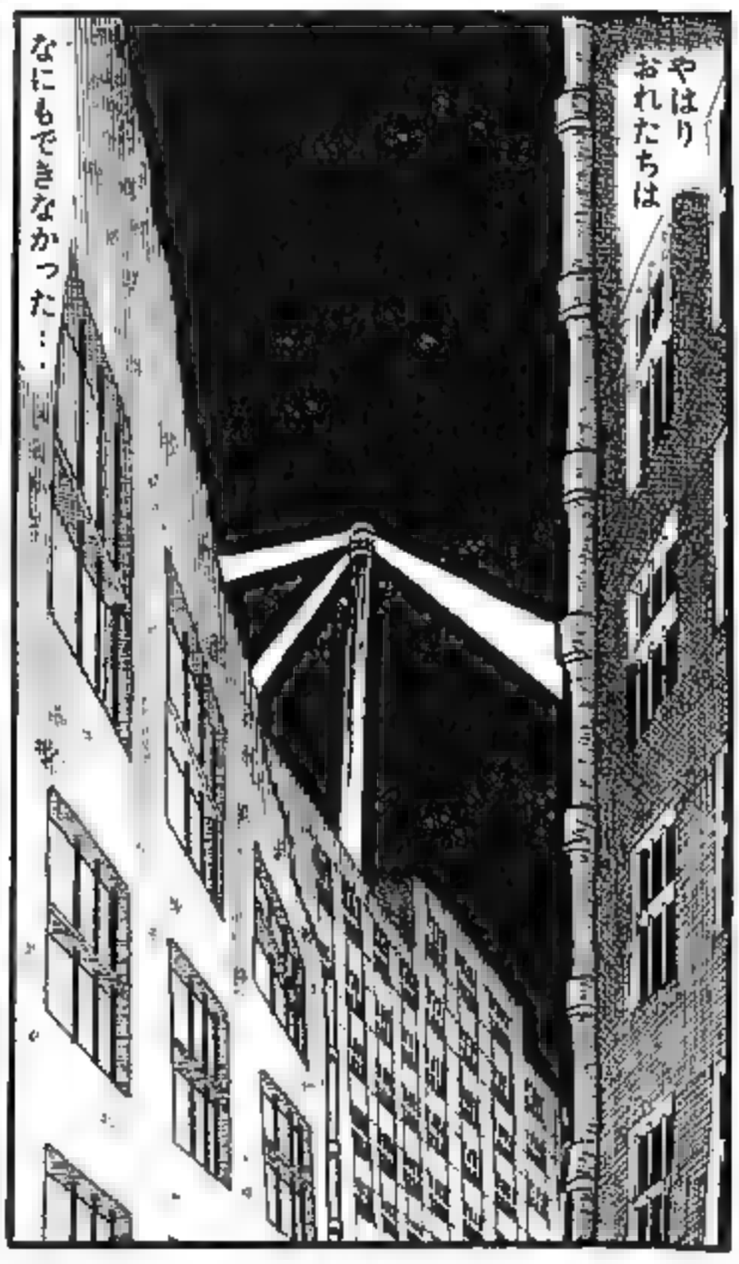
やれっ……
きっ……
鬼頭さん……

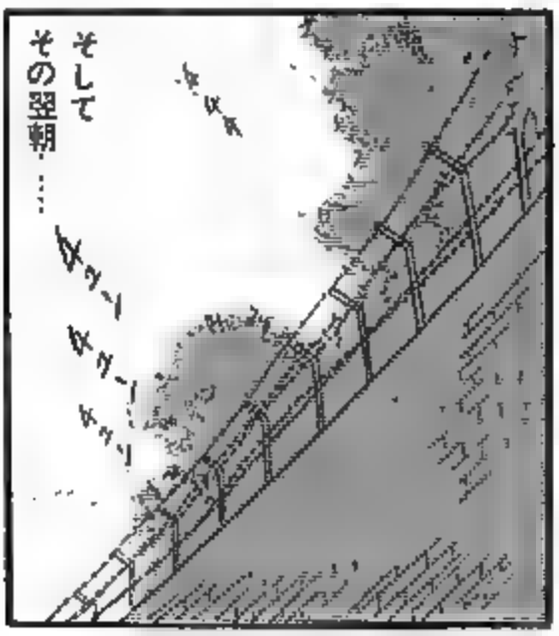
すまねえ
すまねえ
……

つぎ…
うっ……
うう……
つぎ……

つぎ!
つぎ!!
いいか……もし
助けようなんてこと
考えたら……
きさまらも
こうなるんだぞ

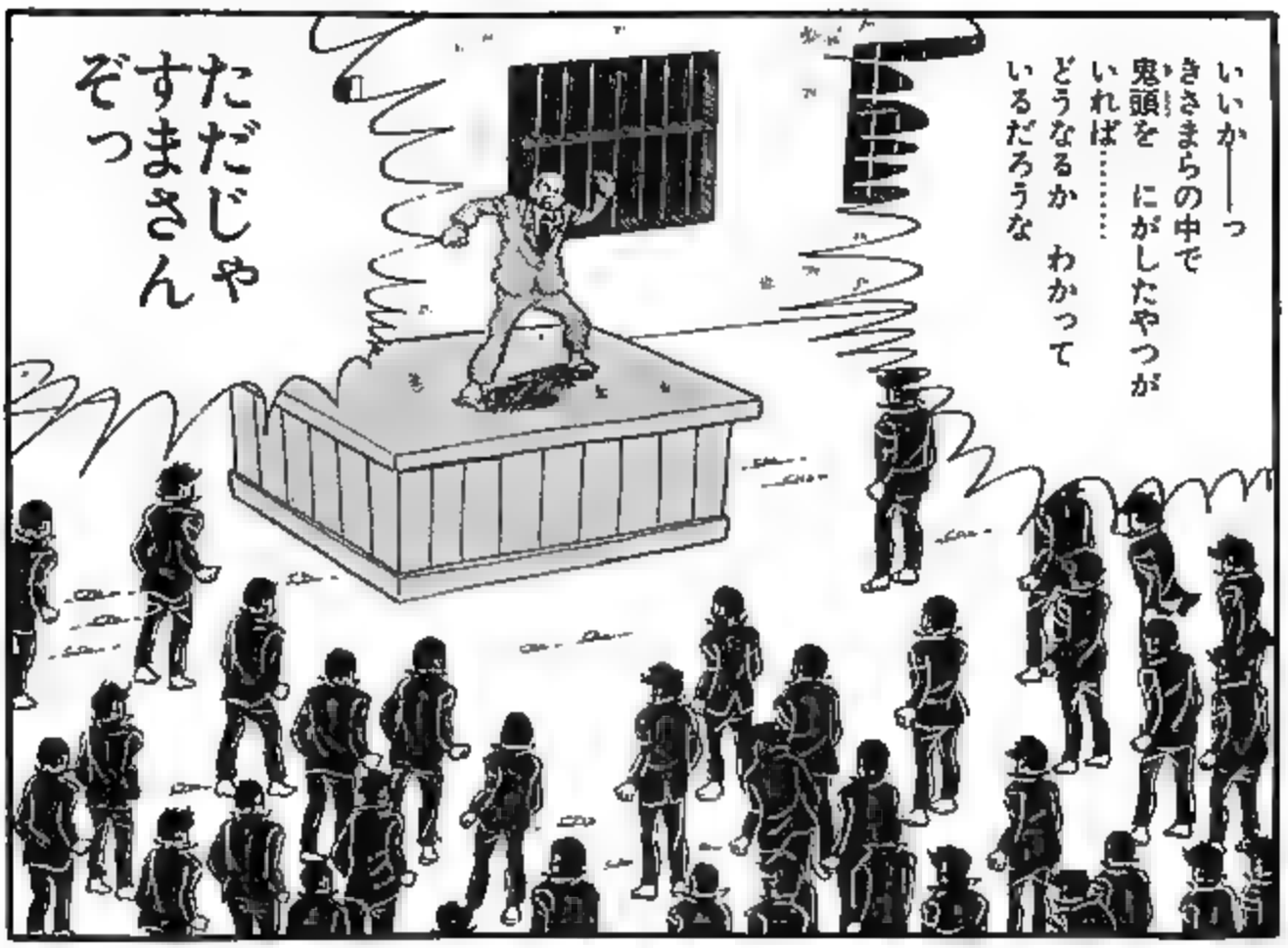

ふふ
カスどもめ……
思いしるがいい……


やはり
おれたちは
なにもできなかった…


そして
その翌朝……

あの惨劇が
おきたんだ

あっ
ブッ
ブッ
いない
鬼頭がいない
にげた……
なにい
――っ
外に　にげられるわけはない……
どこかにかくれているはずだ……
さがせっ
さがせーっ


いいか——っ
きさまらの中で
鬼頭を　にがしたやつが
いれば……
どうなるか　わかって
いるだろうな
ただじゃ
すまさん
ぞっ

きさま
かっ!!
ちっ……
ちがう……
おれじゃねえ

きさま
だろ——っ
しらねえ
しらねえ
よっ……

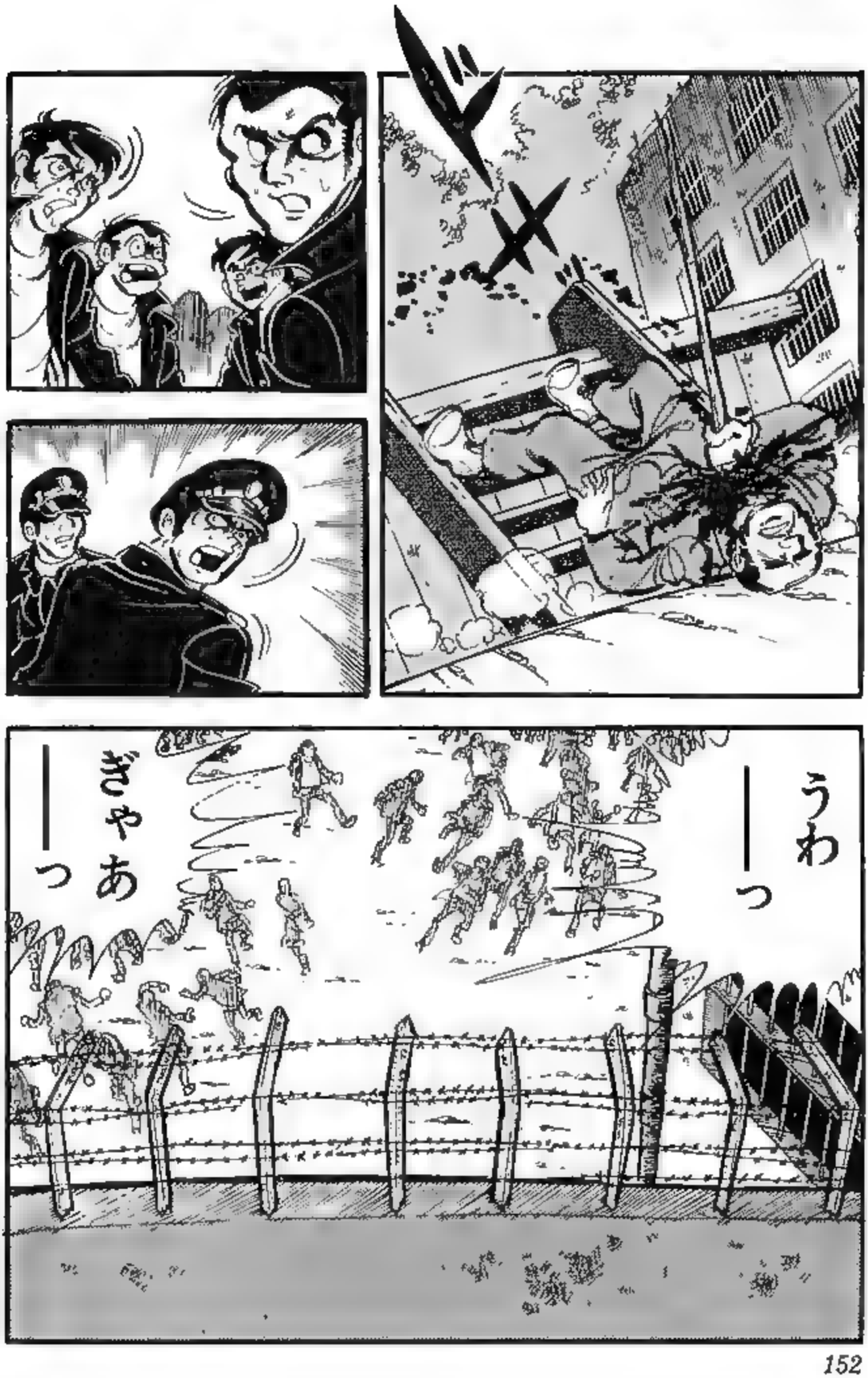
所長!!
いたか……
だめです みあたりません……
きさまらも さがせっ…
もし みつけたやつには 特別に 刑期を 短縮して やるぞっ……

あうっ

うっ
ひっ

!!
あっ

う……う……


うわ——っ
ぎゃあ——っ

きっ
鬼頭……
ぜんぶ
死んで
もらうぜ!!

ひっ……
ああ……
うっ……
うあ……

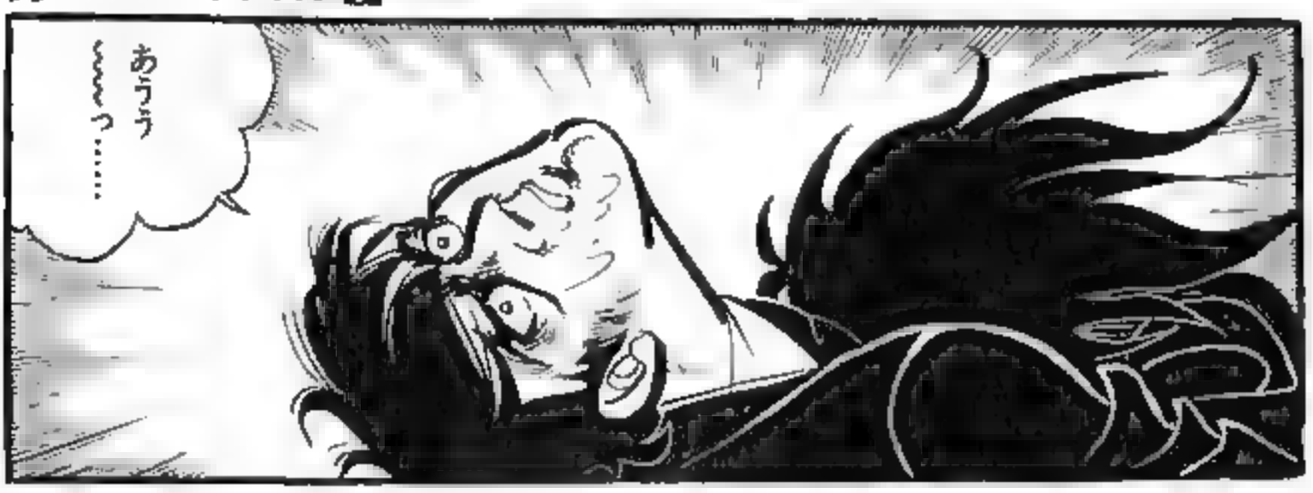
ドッ
げふっ
ぎゃ
——っ
うわあ
ああ〜〜
あわわ
わ……
うわ
——っ
ぎゃあ
——っ

あわわ……

うう……
ひいぃぃぃっ

きさまら……
ようく
みておくんだ
……
なんのために…
なんのために
おれが……

おれが
死ななきゃ
ならねえかっ


あうう
～～～っ……

ああ～～
鬼頭さん
……

さらば特少の巻

鬼頭さんが死んだあと……
力のある奴がこの特少へ入ってきた時…

鬼頭さんの名を消してはすまんと思い……
おれたちは鬼頭さんがいまでも生きているように必死でさいくした…
てめえら…
てめえら～～～っ

ばかやろ
うーっ
うっ
死んじ
まえーっ
おっ
てめえら
ぜんぶ……
首をくくって
死んじまい
やがれー
ゲッ

てめえらみてえなカスが何人死のうがな!!
鬼頭ひとり生きてたほうが…
げっ
数倍ましじゃい
そうなんだそうなんだよ……
あの時……おれたちさえ立ち上っていれば……

鬼頭……
おまえは……
おんどれは！
ばか
やろーっ
大ばか
やろう
じゃい

こんな
カス野郎どものために
命を すてる
なんざあ
大ばか
やあーっ

わいは
死なん!!
わいは
ぜったいに
死なんぞっ

死んでしもうたらそれまでや……
それでおしまいやないけっ
鬼頭よお〜〜
うあああ
くるんだ万吉……
かってに独房を脱走しおって……
所長はん…

あんさんかて男やろ……
だったらこのままそっとしておいたったらどうやね
……
それからもうひとつ……
鬼頭さんの名をまっ殺しようとしたら……
わいらがしょうちしまへんで……
こんどは万吉一家があいてや……

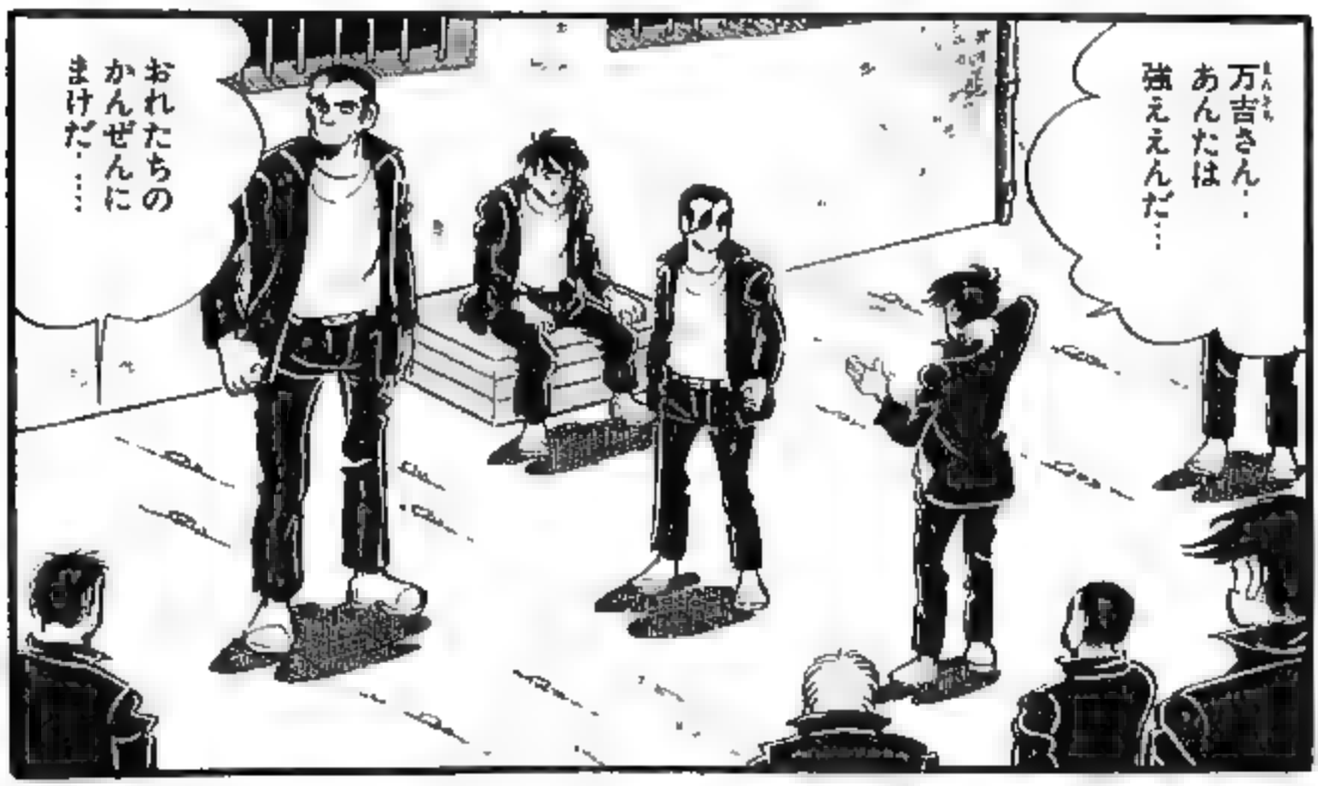
おんどれらもそうやでっ
鬼頭政次の名はぜったい忘れるなっ

ムム……
ばっきゃろう
かっこつけてねえで
はやくなげろい
ちょはっち

ヒュ…
ゴッ
ケヘヘヘ…
わりいわりいっ
ふふ…
もう……この特少はかんぜんに親分のものだぜ
あほっ

まけじゃ……
わいの
まけや……
鬼頭
……
やるぞ
わいは……
おまえに
まけられん
……
ン……
万吉
さんよ……
な
なんだ……

てめえら……
まだこりねえで
なにか
やろうってのか
……
とんでも
ねえ……


万吉さん…
あんたは
強ええんだ…
おれたちの
かんぜんに
まけだ……

あんたなら…
まけたって
鬼頭さんは
許してくれると
思うぜ…
おんどれら
もな……
よう守った
りっぱやで……

ふふふ……
へっ……
へっ……
はは……
はっは
ははは
うわっは
ははは……

ほっ…
ほんま
でっか…
うむ
……
ええ
ーっ
院長
おっ……
親分……
信じられん
……
あの水戸の
ばあさんが
わいのために 金を
だしたちゅうのん
け……
もちろん
正式にでは
ない……
水戸のばあさんに
よる 政治的な
力でだ……

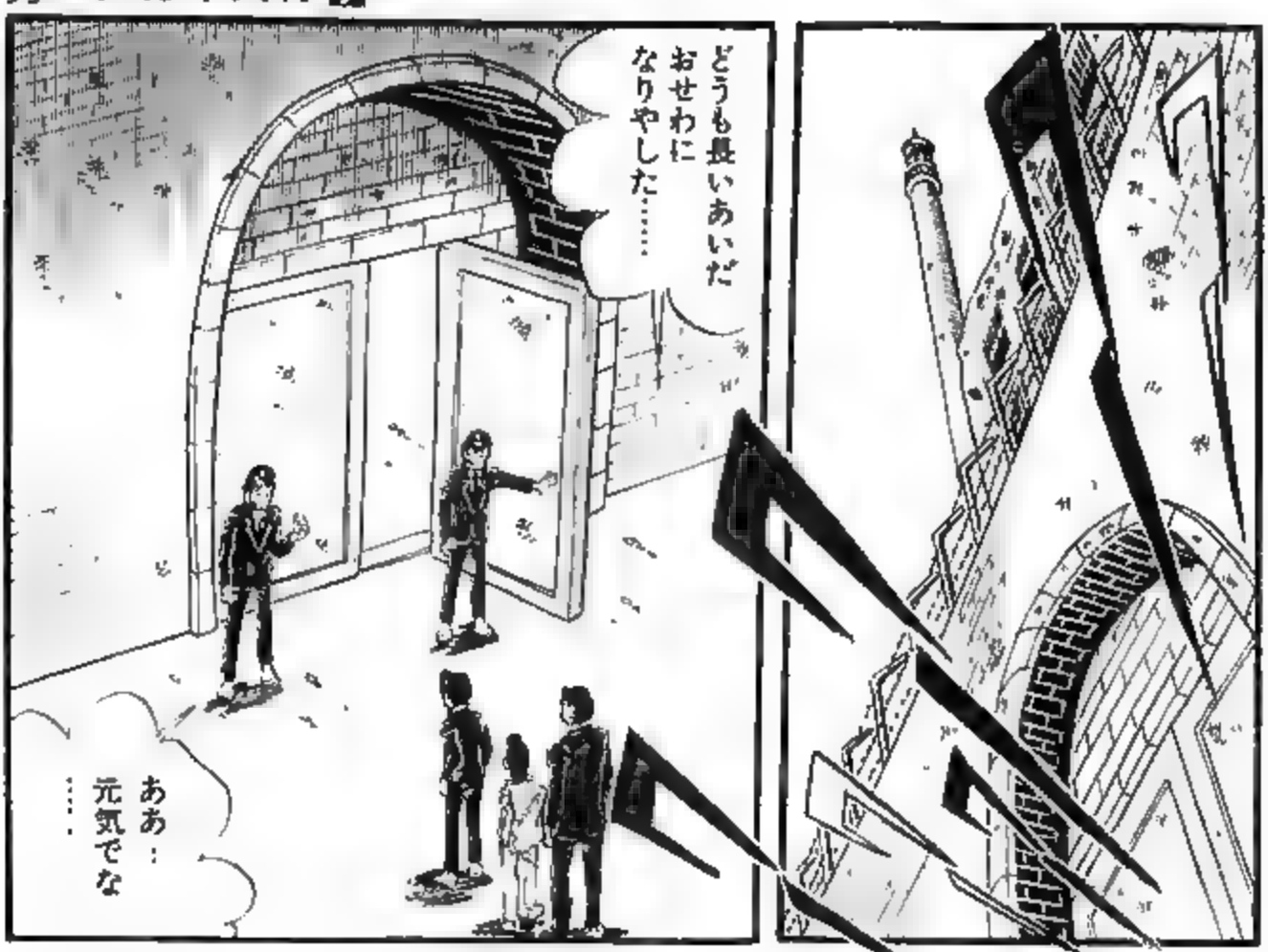
万吉くん…
あんたは
こんな所に
くすぶっとる
のは
もったい
ない……
わしの方から
でられるよう
申請しとった……
親分
大将
きい近は
生活たいども
いいこと
だしな…
あと十日も
すれば
でられるよ
……
所長はん
……
わかっ
とる……
こんごは
教官としての
ほこりを持ち
ビシビシ
教育していくし
院生が 生活し
やすいように
がんばる…
シャバへ
もどったら
がんばって
な……
ああ～～
やったる
でっ…

万吉親分：
シャバへでたら
がんばってくれよ…
おれたちも
でられたら
がんばるぜっ
・・・
万吉さんや
鬼頭さんに
まけねえように
な……
ああ
……

ええか…
鬼頭さんの名は
くれぐれも
だいじにせえよ…
わかってる
この特少には
鬼頭政次
……

それに
戸川万吉の
名は
永久に残るぜ…
テ…
テレクサイ
ことというな
アホ…

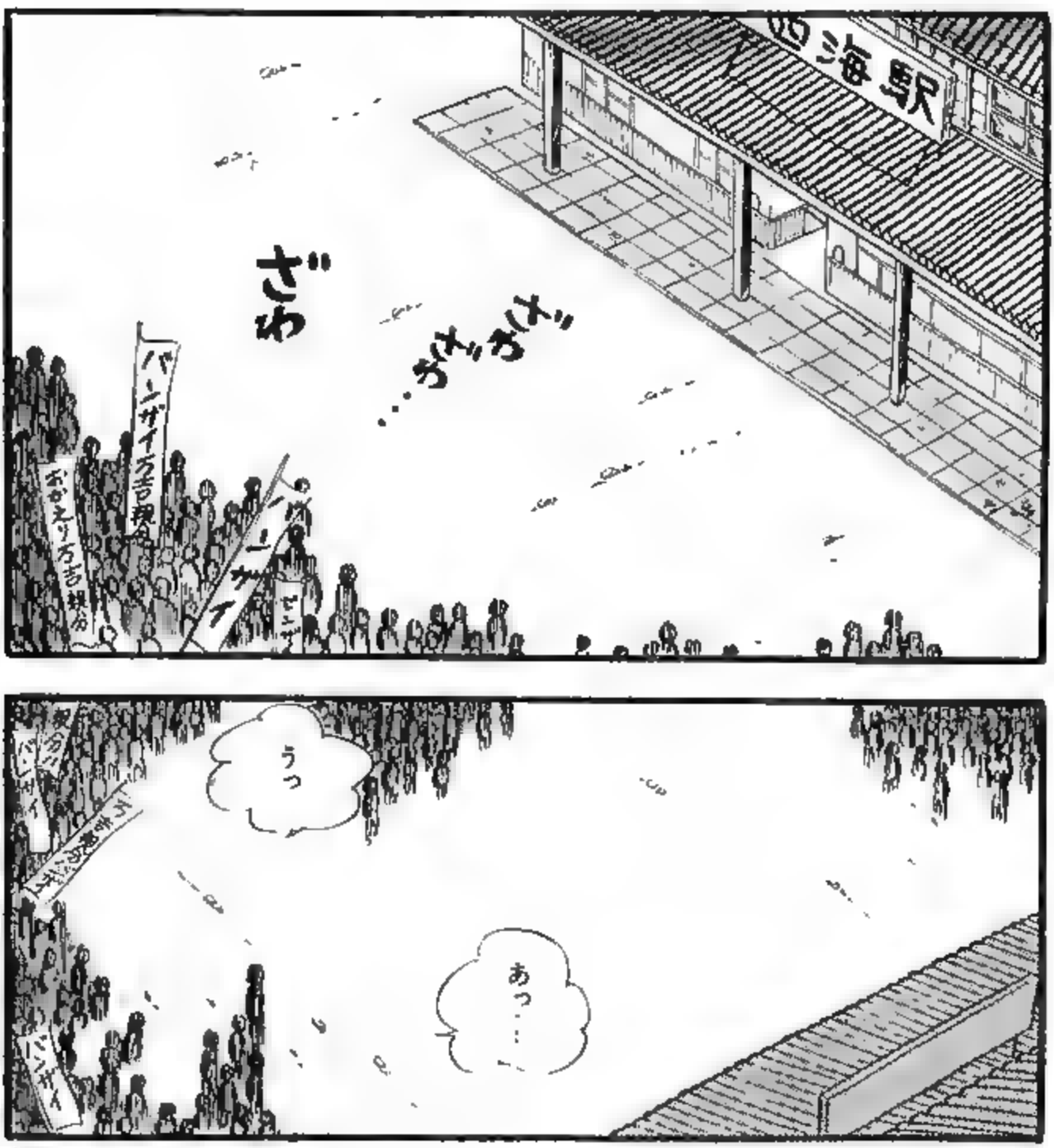
おんどれらも
シャバへでてきた
時は
いつでも わいの所へ
きてくれっ
ひと足先に
でて
まっとるでーっ
おお
ーっ


どうも長いあいだおせわになりやした……
ああ…元気でな……

うめえなぁ～～っ
やっぱりシャバの空気はうめえやねえ親分！
ああ……

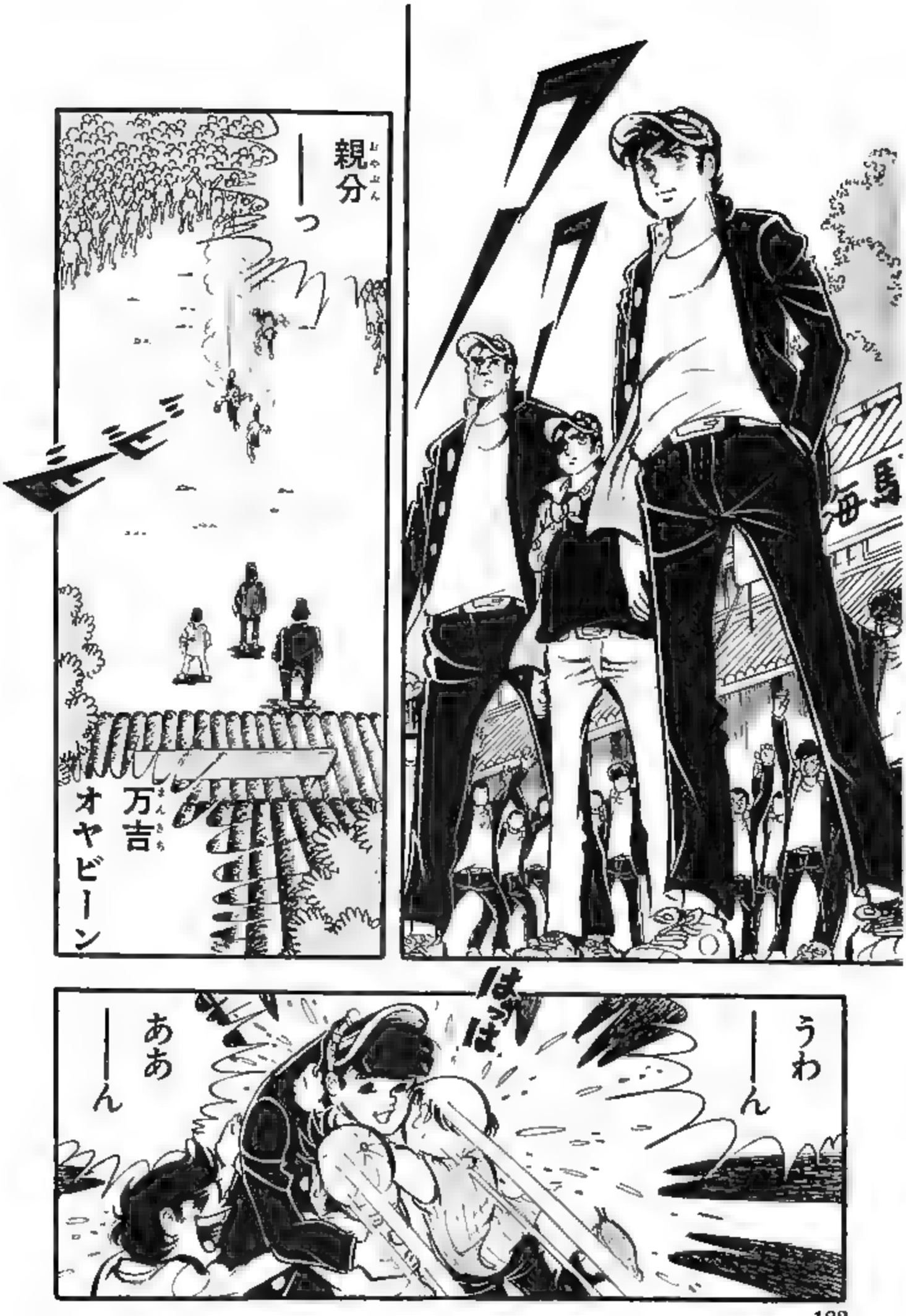
それにしても
氷戸のばばあめ…
なにをたくらんでわいをだしさらしおったんか…
ふふ…だしてくれるちゅうもんはありがたくだして　もらうで……
おばば……
銀…
網!!
へい…
へっ…
ええか…ほんまの戦いはこれからじゃ……
いくでえーっ
おお!

万吉西海村に帰るの巻



親分
親分
大将

万吉
親分
万吉
親分


親分
——っ
万吉
オヤビーン
馬
うわ
——ん
はっは
ああ
——ん

ラクパ……
アホ……なにを…泣いとんじゃ…
へい……
親分(おやぶん)が帰ってきたんやよろこばなあかんのやど
へい……
長いあいだるす番ごくろうやったなあ
おお……
ばか……

親分
うわーっ
うわーん
うわーん
ははは……
親分
すげえや……
あんさん…
ほんまに
すげえで……
あんさんを
みてたら……
なんやしらん
うれしいて
うれしいて
体が……
ふるえて
きよんね……

やろうな……
またやろうな
みんな……
わいと
いっしょに！
また
大暴れ
したろうや
ないけー
おお
——っ
やったん
どーっ

うむ……
ふむ……

へっへへへ…

帰ってきよったか……
ふふ 万吉め どんなツラつきになって帰ってきよったか……

ふふ……
ははは……
ガ!
アタ……
いかん
いかん…
どれっ　ひとつ
ようすを
みにいって
みるか……
わしと
したことが
ばかに
おちつかん
わい
ぎゃあ
ぎゃあ

ふむ…
はでに
やっとるわい
……
ごめん…
ン……
やあ……
おしょう…
……
おしょうはん
……
アン……
なんじゃ……
おまえら
だけか…
あれ……

おしょうのところじゃねえのかい
駅で 先に家へいってろっていわれたんできてみたら…
おばさんもいねえんだ……
ふむ…
お寺へいくようなことといってたけどね……
わしのところへ…
ふむ……そうか…
なるほどな…いってみるか……

ン……
先祖代々
おかあちゃん……
戸川家先祖代々

あんた
……

ただ…　わたしの
できることは
あの子のじゃまに
ならんようにする
だけですわ…
あの子の
やりたいことを
そっと
みています…

万吉は
いつのまにか
どんどん大きく
なってしまい
ました
もう　わたし
なんかの　でる
まくは
ありませんよ

あんたも
みてやって
くださいね・
戸川家先祖代々
ほんまに
男らしい子に
育ってくれて
わたしは　もう
う…う…う…

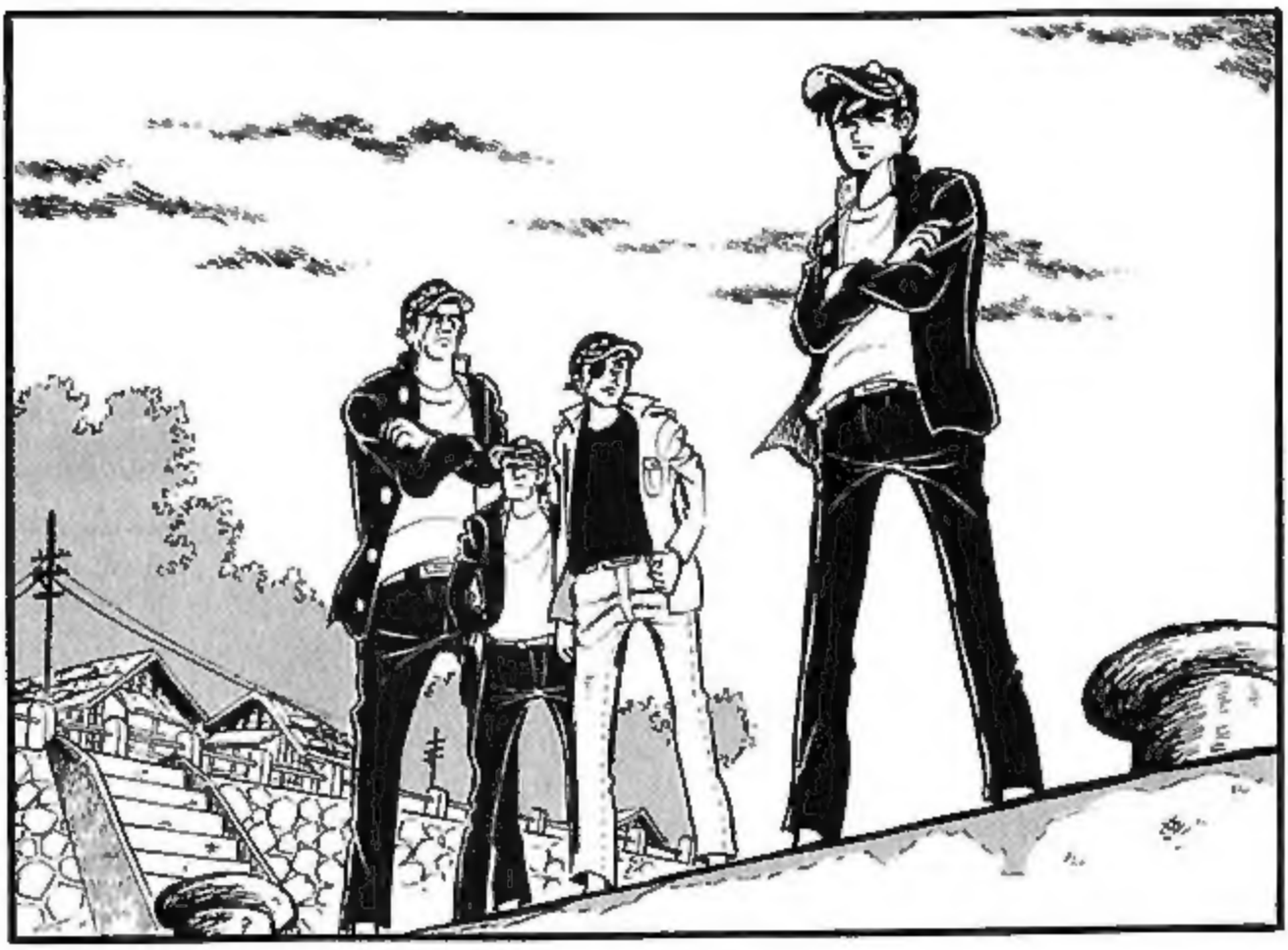
おかあ
ちゃん……
五神漢太郎

ありがとう
ウ…
わいは
どんなになろうと
おかあちゃんの子や…
おかあちゃんは
わいのおかあちゃんや

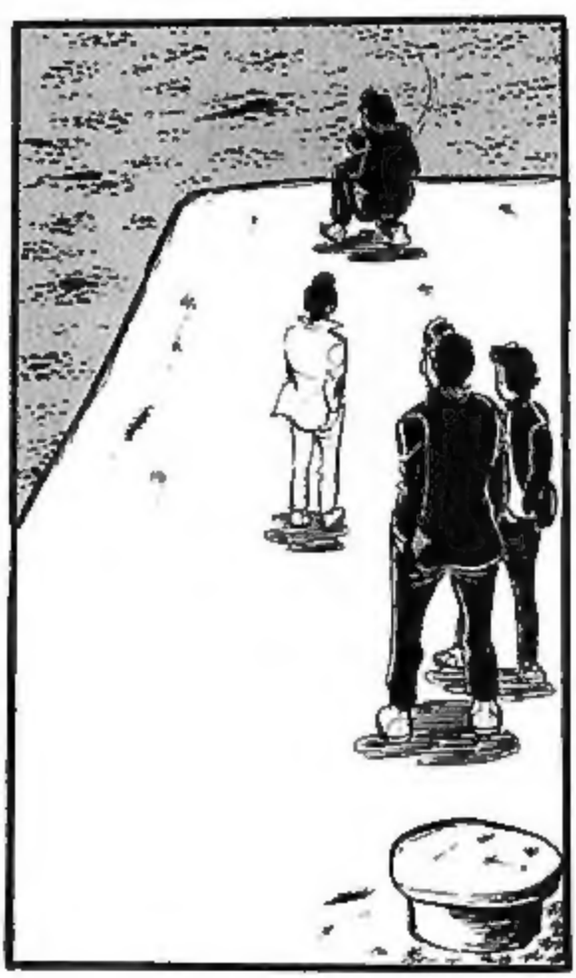
あはは
はは…
なんじゃ……
きとったんかい
おかあちゃん
……
まっ
万吉…
へっへへ
……

家へ
帰るまえに
……
ひさしぶりに
おとうちゃんに
あいさつして
いこう 思って
よったんや
ひさしぶりやな
オヤジ……

おかあちゃんに
苦労ばかり
かけて……
戸川家先祖代々
いんで
まいよって…
ほんま
しゃあないで
……
せやけど
安心しとくん
なあれ…
おとうちゃんの
分は わいが
たっぷり
めんどうみたるわ…
なにいってんの…
おまえのほうが
よっぽど苦労
かけよるわ…
心配ばかり
させよって
……
せやったか
……
はっはは
はは
あはは
はは
こりゃ…
わしのでる
まくは なさ
そうじゃ
ふふふ
……



ねえ…これから
どうするんです
親分……
西海に
いても
しょうがねえ
でしょう



せやっ…
東京へ　行か
なんだら　勝負に
なりまへんで…

銀次…
へい……
おんどれ四国へいけ……
へえ～～～っ……
綱村……われは九州じゃ……
へっ…
松川おのれは中国地方…
そっ…そらまたどういうわけでんね…

男を
さがして
くるんじゃ
……

男…

あんな地のはて
みてえな
特少にさえ
……

鬼頭という
すばらしい男が
いさらしよった

まだいる
……

骨のある
ほんまの男が
ごまんといる
はずじゃい！

わかった

そういう
男を探して
万吉一家に

そうや…

そして
もうひとつ……わいの
勝負は これから日本全国を
またにかけてやる！

いつ
どんな時
どんな所へでも
あつまるよう
……

そのために……
日本全国に
兵隊をつくる
ちゅうことですな
……
そして まず
手はじめに
九州と四国そして
中国地方……
おんどれらが
すばらしい
仲間をつれて
帰ってからじゃ…
わいは
その間に
やっとくことが
ある……
わかったら
すぐに
行けいっ
おお
――っ!!